



System i

e-business および Web サービス  
IBM Telephone Directory V5.2

バージョン 6 リリース 1







**System i**

**e-business および Web サービス  
IBM Telephone Directory V5.2**

*バージョン 6 リリース 1*

## ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、45 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Business Solutions (プロダクト番号 5722-BZ1) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： System i  
e-business and Web serving  
IBM Telephone Directory V5.2  
Version 6 Release 1

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2008.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™ W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2004, 2008. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2008

# 目次

|  |          |  |           |
|--|----------|--|-----------|
| <b>IBM Telephone Directory V5.2</b> . . . . .                              | <b>1</b> | 最大検索時間の変更 . . . . .  | 23        |
| IBM Telephone Directory V5.2 の PDF ファイル . . . . .                          | 1        | 最大写真サイズの変更 . . . . .   | 23        |
| IBM Telephone Directory V5.2 の概要 . . . . .                                 | 2        | EIM 登録および識別マッピングのセットアップ . . . . .                                | 24        |
| WebSphere Application Server との対話 . . . . .                                | 4        | Sametime チャット・リンク (STLink) サポートの<br>セットアップ . . . . .             | 25        |
| HTTP Server for i5/OS との対話 . . . . .                                       | 4        | Sametime 在席者リスト・サポートのセットアップ . . . . .                            | 26        |
| IBM Tivoli Directory Server for i5/OS (LDAP) と<br>の対話 . . . . .            | 5        | IBM Telephone Directory V5.2 の使用 . . . . .                       | 26        |
| Domino 6.0 for iSeries の LDAP との対話 . . . . .                               | 7        | 項目の検索 . . . . .  | 27        |
| Lotus Sametime サーバーとの対話 . . . . .  | 8        | IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーション<br>を使用した項目の追加 . . . . .    | 29        |
| EIM (エンタープライズ識別マッピング) サーバー<br>との対話 . . . . .                               | 9        | IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーション<br>を使用した項目の変更 . . . . .    | 31        |
| IBM Telephone Directory V5.2 と Lotus Sametime<br>での同一のディレクトリーの使用 . . . . . | 11       | IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーション<br>を使用した項目の削除 . . . . .    | 31        |
| IBM Telephone Directory V5.2 のインストール . . . . .                             | 12       | IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーション<br>を使用したパスワードの変更 . . . . . | 32        |
| IBM Telephone Directory V5.2 の管理 . . . . .                                 | 13       | Sametime 在席者リストへの項目の追加 . . . . .                                 | 33        |
| IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを<br>使用した項目の追加 . . . . .               | 15       | 項目を使用した Sametime チャットの開始 . . . . .                               | 33        |
| i5/OS システム・レジストリーからの複数項目の<br>追加 . . . . .                                  | 17       | EIM レジストリーの管理 . . . . .  | 34        |
| .ldif ファイルを使用した複数項目の追加 . . . . .   | 18       | 追加機能での作業 . . . . .   | 35        |
| IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを<br>使用した項目の変更 . . . . .               | 18       | IBM Telephone Directory V5.2 のトラブルシューテ<br>ィング . . . . .          | 35        |
| IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを<br>使用した項目の削除 . . . . .               | 19       | 注意と制限 . . . . .  | 42        |
| 項目のパスワードの変更 . . . . .  | 19       | <b>付録. 特記事項</b> . . . . .  | <b>45</b> |
| ディレクトリー・アクセスの変更 . . . . .  | 20       | I プログラミング・インターフェース情報 . . . . .                                   | 46        |
| アプリケーションの登録プロパティーの変更 . . . . .   | 21       | 商標 . . . . .   | 46        |
| ユーザーに対する項目の更新および削除の許可 . . . . .  | 22       | 使用条件 . . . . .   | 47        |
| 項目の最大検索サイズの変更 . . . . .  | 22       |  |           |



---

## IBM Telephone Directory V5.2

IBM® Telephone Directory V5.2 アプリケーションは IBM Business Solutions V1.0 (5722-BZ1) のライセンス・プログラムの一部であり、LDAP ディレクトリーにある項目を検索、表示、および管理することのできる Web ベース・アプリケーションです。

IBM Telephone Directory は、既存のアプリケーション用にすでにセットアップされているディレクトリーで使用できます。また、オプションで、Web 管理 GUI または IBM Welcome Page V1.1 アプリケーションを使用して、新規のディレクトリーをセットアップすることもできます。

以下の機能が提供されます。

- 名前、職責、電子メール・アドレス、電話番号、部門、課による検索を行う。
- 組織構成 (組織図や部門リスト) を表示する。
- パーソナライズされた情報 (ピクチャー) を保管する。
- Lotus® Sametime® を使用して他のユーザーとのチャット・セッションを開始する。
- Lotus Sametime コンタクト・リスト (メンバーリストとも呼ばれる) に項目を追加する。
- EIM (エンタープライズ識別マッピング) レジストリーを表示および管理する。

### 関連情報



IBM Business Solutions

一般的なビジネス要件に対する統合ソリューション

IBM HTTP Server for i5/OS

IBM HTTP Server for iSeries 製品に関する資料を参照できます。

IBM Welcome Page V1.1

IBM Welcome Page V1.1 アプリケーションに関する資料を参照できます。

IBM Survey Creator V1.0

IBM Survey Creator アプリケーションに関する資料を参照できます。

---

## IBM Telephone Directory V5.2 の PDF ファイル

この情報の PDF ファイルを表示および印刷することができます。

この文書の PDF 版を表示またはダウンロードするには、「IBM Telephone Directory V5.2」を選択します。

次の関連トピックの PDF を表示またはダウンロードできます。

- IBM Welcome Page V1.1
- IBM Survey Creator V1.0


### PDF ファイルの保存

表示用または印刷用の PDF ファイルをワークステーションに保存するには、次のようにします。

1. ご使用のブラウザで PDF のリンクを右クリックする。
2. PDF をローカルに保存するオプションをクリックする。

3. PDF を保管するディレクトリーを指定する。
4. 「保存」をクリックする。

## Adobe®Reader のダウンロード

これらの PDF を表示または印刷するには、Adobe Reader がシステムにインストールされている必要があります。Adobe Reader は、Adobe Web サイト ([www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html](http://www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html))  から無償でダウンロードすることができます。

---

## IBM Telephone Directory V5.2 の概要

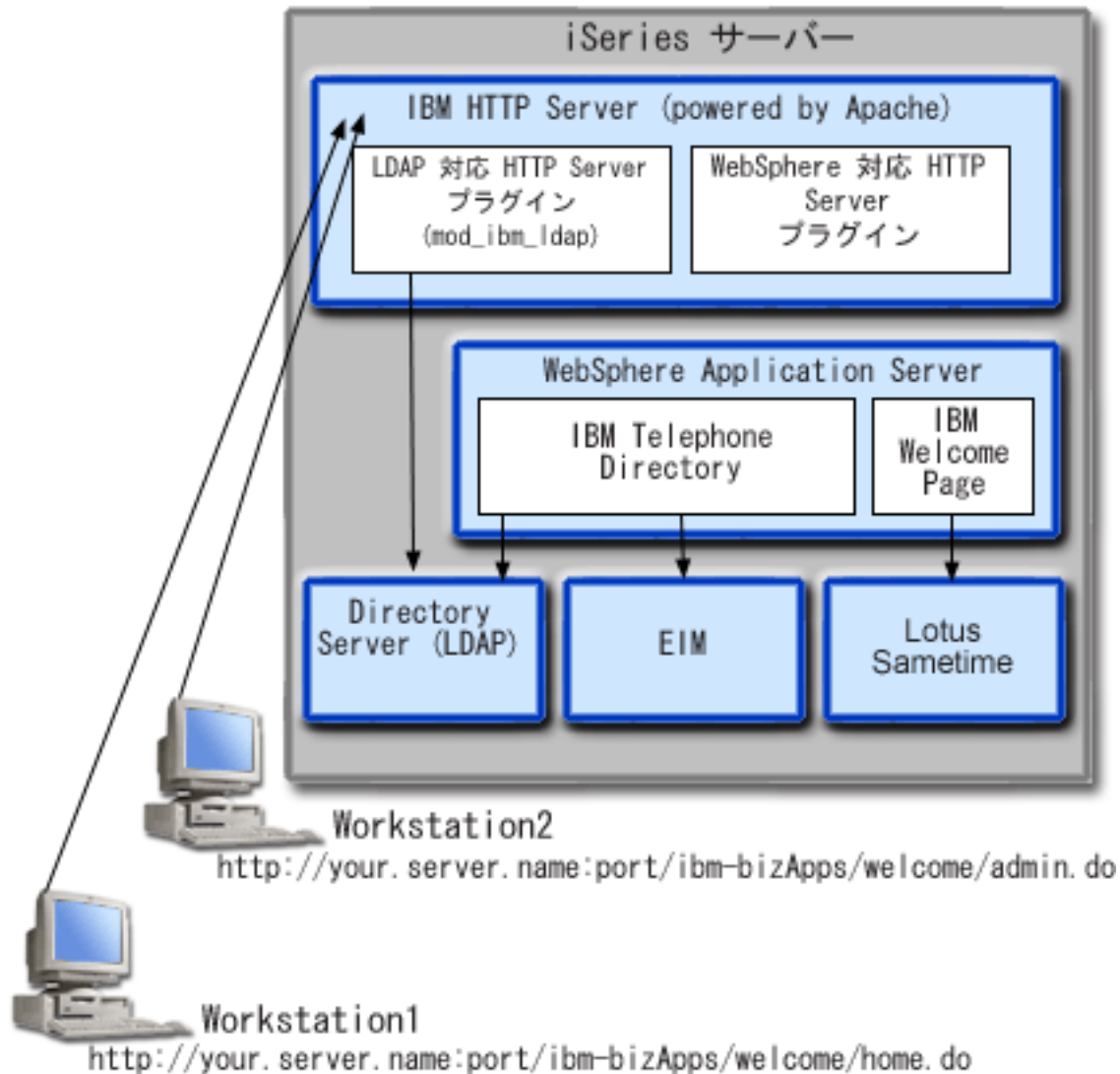
このトピックでは、IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションの概要、およびこのアプリケーションが別の iSeries™ サーバー・コンポーネントや各種ソフトウェア・コンポーネントと対話する方法を説明します。

IBM Telephone Directory V5.2 では、LDAP ディレクトリー内の項目を検索、表示、および管理できます。ディレクトリーは、組織内の従業員に関する個人情報を含む項目を持った簡単な住所録として使用でき、業務上の連絡先を含めることもできます。さらに、ユーザーおよびパスワードを一元的に定義および制御し、組織の Web アプリケーションやコンピューター・システムに使用することもできます。iSeries Directory Server Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) を使用して情報をセキュアに保管し、IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションを使用して情報の参照および管理を行います。このアプリケーションでは、ディレクトリーが既に存在する場合、既存のディレクトリーを使用できますが、新しいディレクトリーをセットアップすることもできます。さらに、Lotus Sametime 統合および EIM (エンタープライズ識別マッピング) 統合を活用することもできます。

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションでは、iSeries Directory Server (LDAP) と、Domino® 6.0 for iSeries の LDAP (Domino Directory サービス) という 2 つのタイプのディレクトリー・サーバーをサポートしています。

アプリケーションの概要は以下のとおりです。





IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションは、ご使用の iSeries サーバーにインストールされます。このアプリケーションは、以下のバージョンの WebSphere® Application Server のランタイムにデプロイできます。

- WebSphere Application Server V6 (Base)
- WebSphere Application Server V6.1 (Base)
- WebSphere Application Server V6 (ND)
- WebSphere Application Server V6.1 (ND)
- WebSphere Application Server - Express for i5/OS® V6
- WebSphere Application Server - Express for i5/OS V6.1

Web 管理 GUI は、HTTP サーバーの管理 GUI に組み込まれており、ユーザーが WebSphere Application Server (Base) または WebSphere Application Server - Express のランタイムにデプロイする場合には、ユーザーの代わりに数多くの基本構成タスクを実行します。

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションでさまざまな iSeries サーバーのコンポーネントやソフトウェア・コンポーネントを使用する方法についての詳細は、以下のトピックを参照してください。

## WebSphere Application Server との対話

IBM Telephone Directory V5.2 には、Enterprise Archive (.ear) ファイルにパッケージされた Web アプリケーションが含まれています。この Web アプリケーションは、WebSphere Application Server のランタイム環境にデプロイされます。

デプロイされると、この Web アプリケーションは、アプリケーション・サーバー経由で、この Web アプリケーションに経路指定された要求を処理します。アプリケーション・サーバーは、さまざまなアクセス・パスを与えることができるほか、一括またはアプリケーションごとに有効なさまざまなセキュリティ機能を備えています。IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションへ経路指定されて処理される要求は、サーバーをパススルーする必要があります。要求がアプリケーションに到達すると、アプリケーションは、要求された LDAP 対話を処理し、さらにオプションで、構成されているエンタープライズ識別マッピング (EIM) または Sametime 操作も処理します。

アプリケーションは、Java™ 標準に従って作成されパッケージ化されています。WebSphere Application Server は、アプリケーションのランタイム環境を備えており、これには Java ランタイム API のサポートが含まれています。以下に、アプリケーションが使用するものを記載します。

- WebSphere Application Server V6 および V6.1 では、標準の Java ランタイム環境 API (J2SE バージョン 1.4) が提供されます。J2SE 1.4 は、LDAP サーバーとの通信に使用される基本的な Java ユーティリティ機能、コンテキスト、ソケット・ファクトリー、さらに国際化対応のための Java ロケール・サポートを提供します。
- エンタープライズ・アプリケーション・ランタイム環境 API (J2EE バージョン 1.3)。HTTP サーブレット (HTTP Servlet 仕様レベル 2.3) および Java Server Pages (JSP 仕様レベル 1.2) に Web アプリケーション・サポートを提供します。
- Web アプリケーション・デプロイメント・ユーティリティ (J2EE バージョン 1.3)。Enterprise Archive (.ear) ファイル、Web Archive (.war) ファイル、および Java Archive (.jar) ファイルを使用して、アプリケーションのデプロイを行います。

アプリケーションのデプロイメント環境、および Web アプリケーションのパッケージ化ツールとサービスについての詳細は、以下の Web サイトを参照してください。

WebSphere Application Server  (<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/software/websphere/wsappserver>)

## HTTP Server for i5/OS との対話

IBM Telephone Directory V5.2 には、次の実働レベルの HTTP サーバーが必要となります。IBM HTTP Server for i5/OS (5761-DG1)。

WebSphere Application Server によって提供される内部 HTTP サーバーを使用することはできません。WebSphere Application Server の内部 HTTP サーバーは、実働レベルでの使用が意図されていないため、実働レベルのアプリケーションで要求されるレベルのセキュリティ、機能、およびパフォーマンスは提供されません。IBM Telephone Directory は、内部 HTTP サーバーでは機能しません。IBM HTTP Server for i5/OS (Apache 2.0 で稼働) が必要です。

要求をアプリケーションへ経路指定するには、事前に IBM HTTP Server プラグイン・モジュール (WebSphere 対応) を使用するよう IBM HTTP Server を構成する必要があります。このプラグインによって、アプリケーション・サーバーは IBM HTTP Server に関連付けられ、IBM HTTP Server が提供するあらゆるサービスを利用できるようになります。この関連付けをセットアップすれば、アプリケーション要求を IBM HTTP Server に送信できるようになります。プラグインがアプリケーション要求を認識し、それらをアプリケーション・サーバーへ経路指定し、アプリケーション・サーバーは要求をアプリケーションへと

経路指定します。また、LDAP 対応 IBM HTTP Server プラグイン・モジュール (mod\_ibm\_ldap) を使用するよう IBM HTTP Server を構成する必要もあります。このプラグイン・モジュールを使用することで、特定のアプリケーション要求がアプリケーション・サーバーへと経路指定される前に、リクエスターを認証できるようにになります。LDAP 認証はこのプラグイン・モジュールによって実行され、また、アプリケーションと同じディレクトリー・サーバーを使用します。アプリケーション・サーバーは、要求の処理に使用できる製品レベルの HTTP サーバーを持ち、また IBM HTTP Server が提供する追加の機能を備えることで、この関連付けのメリットを享受できます。IBM Telephone Directory アプリケーションは、LDAP 対応 IBM HTTP server プラグインによって提供される LDAP 認証サービスを使用することで、より多くのサーバー機能を利用できます。

## IBM Tivoli Directory Server for i5/OS (LDAP) との対話

LDAP ディレクトリーは、オブジェクトの情報をリストしたもので、オブジェクトは、それぞれについて詳細を与える特別な順番で配置されています。LDAP は、汎用リレーショナル・データベースとは異なる特徴を持つ特殊なデータベースです。

ディレクトリーが持つ特徴の 1 つとして、更新 (書き込み) が行われるよりも、(読み取りや検索のための) アクセスが多いという点があげられます。数百人が、ある個人の電話番号を検索することはありますが、その電話番号が変更されることはまれです。

IBM Telephone Directory V5.2 を使用して、既存のディレクトリー内の項目を検索、表示、および管理でき、また、新規のディレクトリーをセットアップすることができます。このアプリケーションは、LDAP ディレクトリー・サーバーを使用して、データの保管および検索を行います。デフォルトでは、LDAP サーバーは、別の LDAP サーバーがユーザーのネットワークに存在しない限り、iSeries サーバーに自動的に構成されます。LDAP サーバーは、アプリケーション・サーバーと同じ iSeries サーバーになくてもかまいません。さらに、Domino LDAP サーバーを IBM Telephone Directory と一緒に使用することもできます。詳しくは、Redpaper「WebSphere Application Server - Express V5.0 for iSeries」を参照してください。



LDAP サーバーには、TCP/IP を使用してアクセスできます。LDAP サーバーのセットアップおよび管理タスクの大半は、System i<sup>TM</sup> ナビゲーターを使用して行います。サーバーに接続されたワークステーションに System i ナビゲーターをインストールする必要があります。

### LDAP 項目

ユーザーによる匿名でのディレクトリー検索は、IBM Telephone Directory V5.2 のインストールのデフォルト設定でのみ許可されます。

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションを使用してディレクトリーに項目を追加すると、項目はユーザーの親 DN に作成され、ユーザー ID の値を使用します。例えば、`cn=users,dc=myhost,dc=mycompany,dc=com` 親 DN に John Jones を登録すると、John Jones の LDAP 項目は `cn=John Jones,cn=users,dc=myhost,dc=mycompany,dc=com` になります。親 DN の更新は、ユーザーからも IBM Telephone Directory V5.2 管理者からも隠されます。ディレクトリー内のオブジェクトを参照するには、識別名 (DN) 属性を使用します。John は認証時にユーザー ID の入力を求められます。登録時に指定されたユーザー ID を入力しなければなりません。この例では、ユーザー名は John Jones です。

既存のディレクトリー項目は、標準的な `inetOrgPerson` オブジェクト・クラスに基づいていれば検索、表示、および管理できます。このオブジェクト・クラスは業界標準のクラスであり、氏名、電話番号、電子メール・アドレスなど、人物に関する情報の表示や保管に広く使用されています。ディレクトリーには、その

他のオブジェクト・クラス (ディレクトリーの検索用にアプリケーションが使用するオブジェクト・クラスなど) の項目を含めることができます。ただし、デフォルトのオブジェクト・クラスは inetOrgPerson です。

アプリケーションによって変更されたディレクトリー項目には、追加された ibm-itdPerson という補助オブジェクト・クラスがあります。ibm-itdPerson オブジェクト・クラスを使用すると、IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションは、標準のオブジェクト・クラスには用意されていない補足的な属性を使用できるようになります。補足的な属性には、代替の電話番号および住所、アシスタントおよびバックアップ用の DN 値、職責、販売区域、および取引エリアなどを含む、勤務地域情報が含まれます。ibm-itdPerson 補助オブジェクト・クラスにあるすべての属性は、オプションです。このクラスを追加すると、inetOrgPerson オブジェクト・クラスに含まれていない補足的な個人の情報を保管できます。

アプリケーションは、要求を受け取った後、LDAP サーバー上で処理を行うために LDAP サーバーに接続する必要があります。要求は、指定されているユーザーの権限の下で実行されます。必要な場合は、アプリケーションは、HTTP 要求に渡されたクリデンシャルを使用して、LDAP サーバーに接続します。アプリケーションは、ディレクトリー項目の作成、更新、または削除などの要求について、クリデンシャルを必要とします。オープン登録が使用可能となっている場合、新規項目を追加するために必要なクリデンシャルは、管理者から提供されます。

要求の検索にクリデンシャルが必要ない場合、アプリケーションは、ディレクトリーの検索に匿名バインドを使用して、LDAP サーバーに接続します。匿名検索アクセスの場合、「**ディレクトリー・アクセス (Directory access)**」構成プロパティを「**匿名 (ログインなし) (Anonymous (no login))**」に設定する必要があります。要求の検索にクリデンシャルが必要な場合、アプリケーションは、HTTP 要求で渡されたユーザーのクリデンシャルを使用して LDAP サーバーに接続します。クリデンシャルが提供されていない場合、要求は失敗します。認証検索アクセスの場合、「**ディレクトリー・アクセス (Directory access)**」構成プロパティを「**ログインが必要 (Login Required)**」に設定する必要があります。詳しくは、『ディレクトリー・アクセスの変更』を参照してください。

LDAP サーバーは、ユーザーが許可を受ける必要がある操作と、ユーザーの要求が成功するかどうかを制御しています。これには、匿名ユーザーの要求も含まれます。ディレクトリーに関するすべての権限の設定が、LDAP サーバーによって指定され制御されています。アプリケーションが、HTTP 要求を LDAP 要求に変換し、クリデンシャルがセキュアに処理されて LDAP サーバーに渡されたかを確認し、LDAP の結果 (成功か失敗か) を、簡単な住所録のような HTML ページにフォーマットします。

ユーザーは、アプリケーションが LDAP サーバーに接続する際に使用するクリデンシャルを入力します。オープン登録が指定されている場合、LDAP サーバーへの接続のためにユーザーのクリデンシャルが使用されることはありません。オープン登録の場合、アプリケーションの構成ファイルからクリデンシャルが読み込まれます。HTTP サーバーは、必要な場合、ユーザーの認証を求められます。アプリケーションは、各リクエストに提供されたクリデンシャルを使用して、(必要な場合) LDAP サーバーに接続します。アプリケーションは、複数の HTTP 要求を処理するために、クリデンシャルをキャッシュに入れたり、LDAP 接続を再使用したりすることはありません。LDAP 接続は各要求ごとに切断されます。このため、アプリケーションが、あるユーザーの要求を処理するために別のユーザーのクリデンシャルを使用して接続することはありません。HTTP サーバーが、LDAP サーバーへの接続に必要なクリデンシャルを提供しない場合、アプリケーションは接続に失敗します。

IBM Tivoli® Directory Server for i5/OS (LDAP) について詳しくは、次のトピックを参照してください。

- IBM Tivoli Directory Server for i5/OS (LDAP)

iSeries 上にある Directory Server を理解し、使用するのに役立つ情報にリンクしています。



- IBM Tivoli Directory Server for i5/OS (LDAP)  (<http://www.ibm.com/servers/eserver/series/ldap>)

「資料 (Publications)」セクションに、記事、Redbooks®、および関連するその他の LDAP ブックへのリンクがあります。

#### 関連概念

『Domino 6.0 for iSeries の LDAP との対話』

iSeries Directory Server (LDAP) の代わりに Domino 6.0 for iSeries の LDAP (Domino Directory サービス) を使用することもできます。

## Domino 6.0 for iSeries の LDAP との対話

iSeries Directory Server (LDAP) の代わりに Domino 6.0 for iSeries の LDAP (Domino Directory サービス) を使用することもできます。

標準の inetOrgPerson オブジェクト・クラスに基づくものであれば、既存のディレクトリー項目を、検索、表示、および管理することができます。このオブジェクト・クラスは、業界標準のクラスで、名前および姓、電話番号、電子メール・アドレスなど、人物に関する情報の表示や保管に広く使用されています。この要件は、iSeries Directory Server (LDAP) によって提供される LDAP サーバーの場合も同じです。また、アプリケーションで変更されるディレクトリー項目には、ibm-itdPerson 補助オブジェクト・クラスが追加されます。inetOrgPerson および ibm-itdPerson クラスについての詳細は、『iSeries Directory Server (LDAP) との対話』を参照してください。

このアプリケーションは、iSeries LDAP サーバーと同じ方法で、Domino LDAP サーバーと対話します。ただし、ディレクトリー項目については、Domino LDAP サーバーを使用して、異なる方法でセットアップと保守が行われます。相違点としては、Domino が dominoPerson オブジェクト・クラスを使用することがあげられます。項目が Domino の全バージョンで表示されるためには、項目が dominoPerson オブジェクト・クラスを含んでいる必要があります。そうでない場合、Domino はそれらの項目を無視します。IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションは、Domino LDAP サーバーを使用するよう特別に構成する必要があります。

Directory Server (LDAP) をセットアップするプロセスで、Domino LDAP サーバーの接尾部と基本 DN が設定されます。この DN は、セットアップ・ウィザードの「親 DN (Parent DN)」フィールドを介して認識し、提供する必要があります。Domino LDAP サーバーを設定する正しい基本 DN を指定するには、セットアップ・ウィザードの「親 DN (Parent DN)」フィールドを使用する必要があります。一般に、基本 DN は Domino ドメイン名を使用して生成されます。次に例を示します。

- **例 1:** 管理者の Lotus Notes® ID が DomAdmin/IBM である場合、DomAdmin が管理者の名前であり、IBM がドメインです。Domino Directory Server (LDAP) が使用する基本 DN は、おそらく o=IBM なので、管理者の絶対 DN は cn=DomAdmin,o=IBM です。
- **例 2:** 管理者の Lotus Notes ID が DomAdmin/Rochester/IBM の場合、DomAdmin が管理者の名前で、Rochester/IBM がドメインです。Domino Directory Server (LDAP) が使用する基本 DN は、おそらく ou=Rochester,o=IBM なので、管理者の絶対 DN は cn=DomAdmin,ou=Rochester,o=IBM です。

**注:** Domino Directory サーバーを使用するには、Lotus Notes を使用して、ibm-itdPerson オブジェクト・クラスをサポートするようにサーバーの LDAP スキーマを拡張しなければなりません。アクセス制御リストも正しく設定する必要があります。設定は、オープン登録にするか、クローズ登録にするかによって異なります。

IBM Telephone Directory と共に使用するよう、Domino LDAP サーバーをセットアップする方法の詳細については、Redpaper「WebSphere Application Server - Express V5.0 for iSeries」を参照してください。



Domino 6.0 の LDAP サーバーのセットアップと使用法の詳細は、Lotus Domino for i5/OS を参照してください。

### 関連概念

5 ページの『IBM Tivoli Directory Server for i5/OS (LDAP) との対話』

LDAP ディレクトリーは、オブジェクトの情報をリストしたもので、オブジェクトは、それぞれについて詳細を与える特別な順番で配置されています。LDAP は、汎用リレーショナル・データベースとは異なる特徴を持つ特殊なデータベースです。

## Lotus Sametime サーバーとの対話

Lotus Sametime は、リアルタイムのコラボレーション・ソフトウェアであり、オンライン認識、インスタント・メッセージ処理システム、アプリケーション共有、仮想ミーティングなどの機能を備えています。

Sametime はクライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションで構成されており、ユーザーのコミュニティーがイントラネットやインターネットを介したリアルタイムのオンライン会議で共同作業を行うことが可能になります。Sametime コミュニティーのメンバーは、在席確認、チャット、画面共用、共用ホワイトボード、およびリアルタイムのオーディオ・ビデオ機能などの共同活動を使用して、e-ミーティングやスケジュールされた会議で会合、会話、および共同作業を行います。

Sametime の「在席確認」テクノロジーを使用すると、Sametime サーバーにログインしているメンバーは、オンライン (ログイン) 中の他のすべてのメンバーを確認できます。オンライン・ユーザーの名前は、Sametime アプリケーションの在席者リスト (メンバーリストとも呼ばれる) に表示されます。これらの在席者リストから、コミュニティーのメンバーはインスタント・メッセージ処理セッションを使用して会話をすることが可能です。また e-ミーティングにチャット、画面共用、ホワイトボード、投票機能、Web ページの送信機能、およびオーディオ・ビデオの共同作業を使用することが可能です。

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションは、Sametime 機能を統合できるようにするために、Sametime Links の Lotus Sametime 用オプション・ツールキットを使用します。Sametime Links ツールキットは、Web アプリケーションの使用を可能にするために用いられるほか、HTML または JavaScript™ API を使用する Sametime 認識処理およびインスタント・メッセージ処理システムで用いられます。

注: IBM Welcome Page V1.1 アプリケーションは、ユーザーの環境で、サーバー名や URL などのオンライン Sametime Links (STLinks) パッケージのロケーションを構成するために用いられます。構成されると、Sametime チャット・リンクおよび Sametime 在席者リスト・サポート (メンバーリスト・サポートとも呼ばれる) 機能が使用可能になります。これらの機能は、IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションの HTML 画面で Sametime Links ツールキット API を使用します。

ユーザーがログインしてディレクトリー項目を検索すると、検索結果は HTML ページに戻されます。このページには、一致した各項目ごとに、ディレクトリーから取得した情報が表示されます。結果には常に、各項目の名前が含まれ、また、電子メール・アドレス、電話番号、および職責のリストが含まれる場合もあります。Sametime チャット・リンクが使用可能になっている場合、この結果には、各項目ごとに認識アイコン (Sametime Links ツールキットによって提供される) も表示されます。認識アイコンは、他のユーザーがオンライン (Sametime にログインしている) かどうかを示すために使用されます。ログインしているユーザーがいる場合は、認識アイコンをクリックして、Sametime テクノロジーを使用している他のユーザーとチャット・セッションを開始できます。

IBM Telephone Directory V5.2 には、Sametime 在席者リスト (メンバーリストとも呼ばれる) のサポート機能もあります。アプリケーションで Sametime メンバーリスト・サポートが使用可能な場合は、検索結果ページのナビゲーション・バーに「メンバーリストに追加 (Add to Buddy List)」アイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、表示されているディレクトリー項目が、そのユーザーの Sametime メンバーリストに追加されます。IBM Telephone Directory V5.2 には、メンバーリストにリストを追加する機能しかありません。このメンバーリストを使用および管理するには、Sametime クライアント・ソフトウェア、または他の Sametime ソフトウェアを使用する必要があります。

チャット・セッションやメンバーリストのサポートのために Sametime サーバーとの間で行われる対話は、クライアント・ブラウザで稼働する Sametime Links ツールキット API によって処理されます。IBM Telephone Directory はこのツールを提供するのではなく、このツールキット・パッケージを Sametime サーバーからダウンロードするために必要なものを HTML ページに追加します。

## 関連情報

Sametime サーバーをセットアップして、IBM Telephone Directory V5.2 と同じ LDAP ディレクトリーを使用するように構成することもできます。これを行うと、追加のユーザー管理を行うことなしに、すべてのユーザーでのリアルタイム・コラボレーションを実現できます。詳しくは、『IBM Telephone Directory V5.2 と Lotus Sametime での同一のディレクトリーの使用』を参照してください。

Sametime テクノロジーおよびオプションの Sametime Links ツールキットに関する詳細は、以下の Web サイトを参照してください。

注: Lotus Sametime は Lotus Instant Messaging and Web Conferencing と呼ばれ、Sametime Toolkit は、Instant Messaging and Web Conferencing Toolkit と呼ばれます。

Lotus Sametime の資料 (英語) 

### 関連タスク

25 ページの『Sametime チャット・リンク (STLink) サポートのセットアップ』

Lotus Sametime を使用してユーザー同士でインスタント・メッセージをやりとりできるようにするには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

26 ページの『Sametime 在席者リスト・サポートのセットアップ』

ユーザーが Lotus Sametime 在席者リスト (メンバーリストとも呼ばれる) に項目を追加できるようにするには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

33 ページの『Sametime 在席者リストへの項目の追加』

アプリケーション管理者がアプリケーションでの Sametime サポートを使用可能にしている場合、ユーザーは Sametime 在席者リストに項目を追加できます。Sametime サポートのセットアップは、管理者のみが実行できます。

33 ページの『項目を使用した Sametime チャットの開始』

アプリケーション管理者がアプリケーションでの Sametime サポートを使用可能にしている場合、ユーザーは項目を使用して、Sametime チャットを開始できます。Sametime サポートのセットアップは、管理者のみが実行できます。

## EIM (エンタープライズ識別マッピング) サーバーとの対話

iSeries で EIM (エンタープライズ識別マッピング) を使用すると、管理者およびアプリケーション開発者は、企業内で複数のユーザー・レジストリーを管理する際の問題を解決できます。

ネットワークを使用する企業の多くは、企業内の個人または各エンティティがユーザー ID を各レジストリーごとに持たなければならないという、複数のユーザー・レジストリーに関する問題に直面しています。複数のユーザー・レジストリーの必要性は、すぐに、ユーザー、管理者、およびアプリケーション開発者に影響を及ぼす管理上の大きな問題になります。EIM (エンタープライズ識別マッピング) は、企業内の複数のユーザー・レジストリーとユーザー ID を管理しやすくするためのソリューションを低コストで実現します。

EIM を使用すると、企業内のさまざまなユーザー・レジストリーにある、特定個人の複数のユーザー ID 間に、アソシエーションと呼ばれる識別マッピングのシステムを作成できます。また、EIM では共通の API セットも提供しています。この API セットは、ユーザー作成の識別マッピングを使用してユーザー ID 間の関係を検索することのできるアプリケーションを開発するために、さまざまなプラットフォームで使用することができます。

システム管理者は、iSeries のグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) である System i ナビゲーターを介して EIM を構成および管理することができます。iSeries サーバーは、EIM を使用することにより、i5/OS インターフェースがネットワーク認証サービスによってユーザーを認証できるようにします。

System i ナビゲーターは、管理者がすべてのユーザーの EIM 識別マッピングを管理するためのインターフェースを提供しますが、管理者以外のユーザーが自身の ID を管理するためのセキュアなインターフェースは提供しません。ただし、非管理者 (ユーザー) は、EIM ドメインにある自分の ID を管理する際に IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションを使用できます。EIM が構成されている場合、ユーザーは IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションにサインインして、自分のディレクトリー項目や EIM 識別マッピングを更新できます。ユーザーが自身のディレクトリー項目を更新するためにログインすると、アプリケーションは、EIM 識別マッピングのみを表示します。ユーザーが自身の EIM 識別マッピングを管理できるようにすることで、EIM のドメイン管理者の作業負荷の軽減に役立ちます。

管理者以外のユーザーが IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションにログインして自身のディレクトリー項目を更新すると、自身の EIM ID に現在関連付けられている識別マッピングのリストも表示されます。アプリケーションでは、「**EIM レジストリー (EIM registries)**」テーブル内に自分の ID のアソシエーションが表示されます。ユーザーは、アプリケーションを使用して、自分の ID のアソシエーションを追加したり除去することが可能になります。アプリケーションは EIM ドメイン・サーバーと対話して、ユーザーの要求どおりに ID のアソシエーションを追加したり除去します。ユーザーが管理できるのは、そのユーザー自身のアソシエーションのみです。

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションは、アプリケーション・ユーザーに関連付けられている識別マッピングを検索するために、IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションのユーザー・レジストリーについて、EIM ドメインに照会します。ユーザー・レジストリーが見つかった場合は、ユーザーがアプリケーションへのログイン時に入力した ID を使用してそのユーザーの EIM ID を検索します。その EIM ID を使用して、そのユーザーのすべての ID のアソシエーションが「**EIM レジストリー (EIM registries)**」テーブルに表示されます。EIM ID が見つからなかった (ユーザーのログイン ID が、IBM Telephone Directory アプリケーションのユーザー・レジストリーに関連付けられていなかった) 場合、そのユーザーの ID が EIM ドメイン内に自動的に作成されて、IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションのユーザー・レジストリーへのアソシエーションが追加されます。

自分の EIM ID に現在マップされている ID のアソシエーションはすべて除去できますが、EIM アソシエーションを追加する場合には、最初に自分のクリデンシャルを IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションに指定しておく必要があります。EIM アソシエーションを追加する際には、システム名を選択し、そのシステムに関連するユーザー ID とパスワードを入力する必要があります。IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションは、クリデンシャルを認証してから EIM ドメインにアソシエーションを追加します。認証に失敗すると、アソシエーションは追加されません。



すべてのアソシエーションが IBM Telephone Directory V5.2 で管理されるとは限りません。アプリケーションは、LDAP プロトコルまたは FTP プロトコルを使用する ID のみを認証できます。LDAP 認証または FTP 認証が受け入れられないユーザー・レジストリーが見つかった場合は、そのユーザー・レジストリーとのアソシエーションは追加されません。ID のアソシエーションをユーザーの EIM ID に追加するには、アプリケーションが LDAP または FTP を使用してユーザーの ID を認証する必要があります。

#### 関連タスク

24 ページの『EIM 登録および識別マッピングのセットアップ』

EIM (エンタープライズ識別マッピング) 登録および識別マッピングを使用すると、ユーザーは EIM ドメイン・サーバーに登録して、自身の識別マッピングをオンラインで管理できます。

## IBM Telephone Directory V5.2 と Lotus Sametime での同一のディレクトリーの使用

Lotus Sametime は、リアルタイム・コラボレーション・ソフトウェアであり、オンライン認識、インスタント・メッセージ処理システム、アプリケーション共有、仮想ミーティングなどの機能を備えています。

LDAP サーバーの Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリーにアクセスするように、Sametime サーバーを構成することができます。この方法で LDAP を使用すれば、LDAP 対応のサーバーおよびディレクトリーがデプロイされている環境に、Sametime を統合できます。IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションも LDAP ディレクトリーを使用してユーザー情報を公開するので、同じ LDAP サーバーにアクセスするよう、ご使用の Sametime サーバーを構成することができます。

IBM Telephone Directory V5.2 を使用している場合は、すべてのユーザーのディレクトリーの管理を既に行っていることになります。Sametime サーバーをセットアップし、同じディレクトリーを使用するように構成することによって、さらにユーザー管理を行わなくても、すべてのユーザーについてリアルタイム・コラボレーションが実現します。

注: IBM Telephone Directory V5.2 と Lotus Sametime が同じディレクトリーを使用する必要はありません。IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションで Lotus Sametime コラボレーションを活用する他の方法についての詳細は、『Lotus Sametime サーバーとの対話』を参照してください。

### 要件

- **Sametime for i5/OS 7.5 または 7.5.1 (5724-J23)**

iSeries サーバーに、Lotus Sametime for i5/OS 7.5 または 7.5.1 をインストールしておく必要があります。

- **Domino 7 for i5/OS (5733-LD7)**

iSeries サーバーに、Lotus Domino 7 for i5/OS をインストールしておく必要があります。

Domino サーバーが、iSeries サーバーにすでに構成されており、Sametime をインストールしたい場合は、新規の Domino ドメインに新しい Domino サーバーをセットアップし、そのサーバーに Sametime を追加する必要があります。同じ LDAP ディレクトリーを使用できるように Sametime および IBM Telephone Directory をセットアップ後、IBM Telephone Directory を使用してディレクトリーに新しいユーザーを追加できます。

## インストールのヒント

- Sametime および IBM Telephone Directory が同じ LDAP ディレクトリーを使用するには、Sametime のインストール時に、「ディレクトリー・タイプ (Directory type)」フィールドにある「LDAP ディレクトリー (LDAP directory)」を指定する必要があります。Sametime が使用する LDAP サーバーの完全修飾名を、「名前」フィールドに指定してください。
- Sametime のインストールによって、Sametime サーバーに Directory Assistance データベース (da.nsf) が作成されます。このデータベースには、Directory Assistance 文書があり、この文書によって、Sametime は、Web ブラウザーのユーザーを認証する LDAP サーバーに接続できます。
- 必ず (Directory Assistance 文書で指定された) Sametime ディレクトリーおよび IBM Telephone Directory の両方が、検索の際に同じ基本 DN を使用するようにセットアップしてください。

## 項目

Lotus Sametime にアクセスするには、認証できる任意の LDAP サーバーのユーザー ID およびパスワードを使用して、Sametime にログオンします。別の方法としては、IBM Telephone Directory の管理者 ID およびパスワードでログオンすることもできます。デフォルトの管理者 ID は Administrator です。パスワードはインストール時に指定したものです。

以下のステップを実行して、IBM Telephone Directory と Sametime アプリケーションで使用する LDAP 項目を追加してください。

1. メインメニューで、「人物 (People)」 → 「追加」をクリックする。
2. 「ディレクトリー」をクリックする。
3. LDAP ディレクトリーが、「ディレクトリー」フィールドにリストされる。Sametime アプリケーションに追加したい名前を強調表示します。Ctrl キーを使用すれば、複数を選択できます。ディレクトリーに多数の項目がある場合、上下の矢印がメイン・ダイアログ・ボックスの上に表示される点に注意してください。
4. 「追加」をクリックする。
5. 「クローズ」をクリックして作業を終了する。

注: LDAP サーバーを使用するため Sametime を構成するには、Domino および Sametime の管理に関する事前知識が必要です。この IBM Telephone Directory V5.2 の資料では、Domino サーバーの始動と停止の方法、Lotus Notes クライアントの使用法、新規サーバー接続の追加方法などの、Domino 管理者としての基本知識があることを前提としています。

Sametime について、および Domino で LDAP を使用方法に関する補足情報は、以下のトピックを参照してください。

- Lotus Sametime インストール・ガイド (英語)  (<http://www.lotus.com/ldd/doc/sametime/3.0/Stinstallis.nsf>)
- Lotus Sametime 管理者ガイド (英語)  (<http://www.lotus.com/ldd/doc/sametime/3.0/sthelpad.nsf>)

要件の完全な情報については、「IBM Lotus Sametime for i5/OS」  を参照してください。

---

## IBM Telephone Directory V5.2 のインストール

このトピックでは、サーバーへのアプリケーションのインストール、アプリケーション・サーバーのランタイムへのアプリケーションのデプロイ、およびアプリケーションの構成方法について説明します。

IBM Telephone Directory V5.2 は、IBM Business Solutions バージョン 1.0 のパッケージの一部です。このパッケージは、iSeries サーバーで使用可能なエンタープライズ Web アプリケーションのセットを提供します。それぞれのアプリケーションは、既存のアプリケーション、サーバー・コンポーネント、およびエンタープライズ・データと連携して動作し、一般的なビジネス・ニーズに対応する統合ソリューションです。これらの Web アプリケーションは、統合 e-ビジネス・ソリューションの価値をデモンストレーションし、作業者の生産性を向上させ、ほぼすべてのビジネスに有益なサービスを提供するものであり、わかりやすく簡単に使用できるアプリケーションです。

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションは、IBM Business Solutions の一部として、IBM Welcome Page V1.1 アプリケーションとともにインストールされて構成されます。これら 2 つのアプリケーションは、IBM HTTP Server for i5/OS の Web 管理 GUI を使用してインストールおよび構成します。インストールと構成の後、IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションは、アプリケーション・サーバーのランタイムにデプロイされます。

注：一部のオペレーティング・システムでは、このアプリケーションが、新規 iSeries サーバーにすでにプリインストールおよび事前構成されている場合があります。

IBM Business Solutions がインストール済みで、IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションを使用するように構成されている必要があります。IBM Telephone Directory V5.2 をインストールすると、IBM Welcome Page V1.1 アプリケーションが自動的にインストールされます。

### 1. アプリケーションをインストールする

iSeries サーバーにアプリケーションをインストールするには、IBM Business Solutions バージョン 1.0 の CD-ROM を使用します。

### 2. アプリケーションを構成する

IBM Telephone Directory V5.2 を実行する新規アプリケーション・サーバーと HTTP サーバーを作成する（または、既存のアプリケーション・サーバーと HTTP サーバーを使用する）には、HTTP サーバーの Web 管理 GUI を使用します。

### 3. アプリケーションをアプリケーション・サーバーのランタイムにデプロイする

IBM Telephone Directory V5.2 をアプリケーション・サーバーと HTTP サーバーにデプロイするには、HTTP サーバーの Web 管理 GUI にあるオプションを選択します。アプリケーション・サーバーと HTTP サーバーが始動すると、アプリケーションが、アプリケーション・サーバーのランタイム環境に自動的にデプロイされます。

IBM Welcome Page V1.1 と IBM Telephone Directory V5.2 の両方のアプリケーションのインストール、構成、およびデプロイする方法に関する詳細は、「IBM Welcome Page V1.1」のトピックの『IBM Business Solutions のインストール』を参照してください。

---

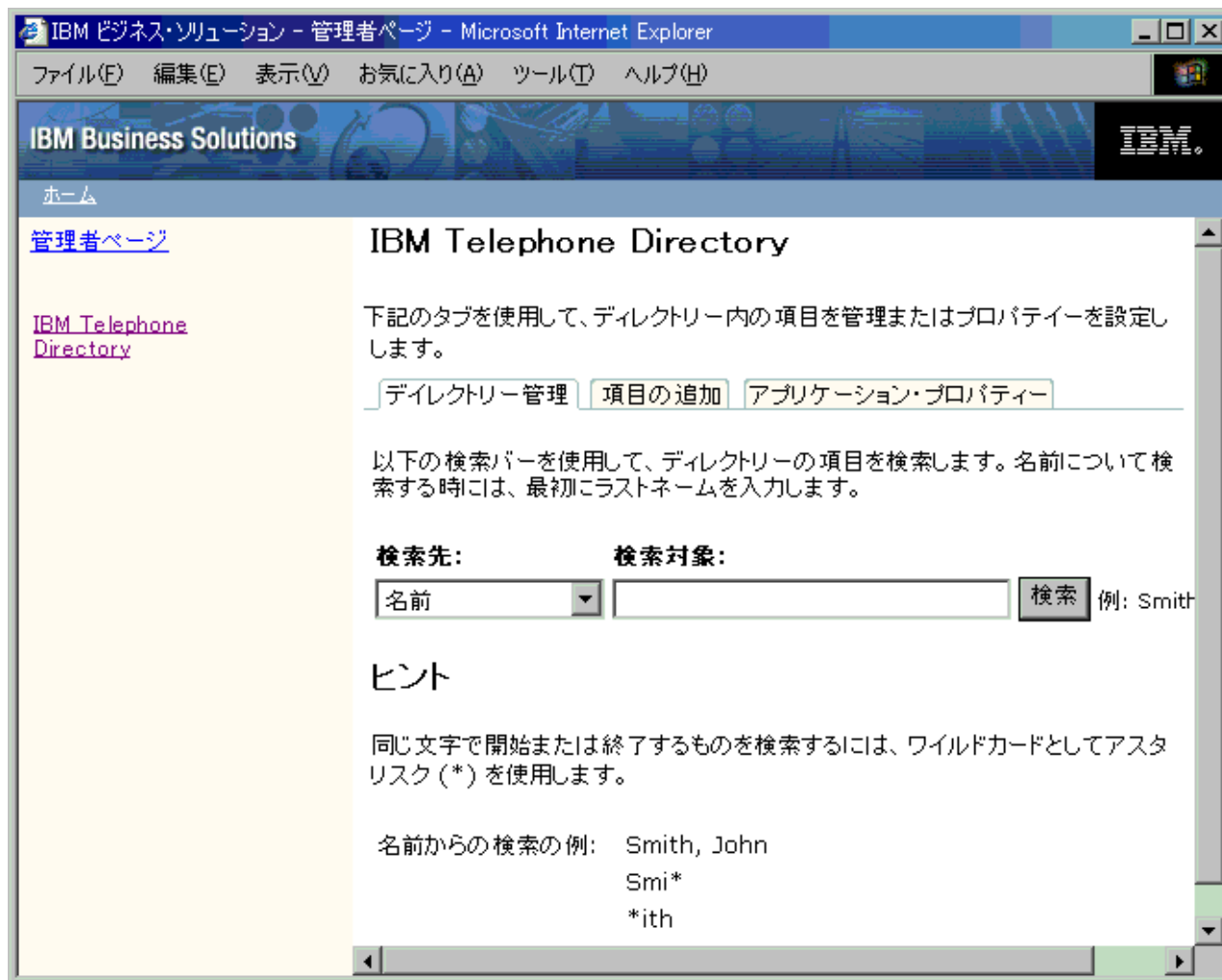
## IBM Telephone Directory V5.2 の管理

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションの管理者は、このトピックを参照してください。アプリケーション項目およびアプリケーション・プロパティを管理する方法について説明します。

IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページにアクセスするには、Web ブラウザーに次の URL を入力します。

`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/admin.do`

ここで、your.server.name は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、port はインストール時に指定したポート番号です。 ナビゲーション・バーで、「**IBM Telephone Directory**」をクリックしてください。



## 項目の追加

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションに項目を追加するには、以下のタスクを使用します。

- IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用した項目の追加
- i5/OS システム・レジストリーからの複数項目の追加
- .ldif ファイルを使用した複数項目の追加

## 項目の変更

IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用して個々の項目のプロパティを変更するには、以下のタスクを使用します。

- 項目の更新
- 項目の削除
- 項目のパスワードの変更

## アプリケーション・プロパティーの変更

アプリケーション・プロパティーを変更するには、以下のタスクを使用します。

- ディレクトリー・アクセスの変更
- アプリケーションの登録プロパティーの変更
- ユーザーに対する項目の更新および削除の許可

## パフォーマンス・プロパティーの変更

アプリケーションのパフォーマンス・プロパティーを変更するには、以下のタスクを使用します。

- 項目の最大検索サイズの変更
- 最大検索時間の変更
- 最大写真サイズの変更

## EIM のセットアップ

アプリケーションで EIM (エンタープライズ識別マッピング) をセットアップするには、以下のタスクを使用します。

- EIM 登録および識別マッピングのセットアップ

## Sametime のセットアップ

アプリケーションで Lotus Sametime 統合をセットアップするには、以下のタスクを使用します。

- Sametime チャット・リンク (STLink) サポートのセットアップ
- Sametime 在席者リスト・サポートのセットアップ

アプリケーションにおける共通のユーザー・タスクの実行方法について詳しくは、『IBM Telephone Directory V5.2 の使用』を参照してください。

### 関連概念

26 ページの『IBM Telephone Directory V5.2 の使用』

このトピックでは、ご使用のアプリケーションでの検索、パスワードの変更、項目の更新および削除などの方法や、Sametime および EIM 統合 の使用方法などを含む、IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションの使用方法について説明します。

## IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用した項目の追加

管理者は、「項目の追加」タブを使用して、ディレクトリーに項目を追加できます。

「項目の追加」ページを使用して追加された項目には、名前、ロケーション、連絡先情報などの情報を入れることができます。項目が作成されると、ユーザーはその項目のリスト情報を検索したり、参照できるようになります。

IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用して項目を追加するには、以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページにアクセスする。

`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/admin.do`



ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

2. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
3. 「**項目の追加**」をクリックする。
4. 「**項目の追加**」ページで適切な基準を入力する。 項目の基準には、新規項目情報とリスト情報という 2 つのセクションがあります。
  - 新規項目情報は、項目の作成に使用されます。項目を作成した後でこの情報を更新することはできません (項目のパスワードを除く)。詳しくは、『新規項目情報』を参照してください。
  - リスト情報は、新規項目が作成された後で収集されて、新規項目とともに保管され、ユーザーがディレクトリー情報を検索すると表示されます。ユーザーが管理者から既存のディレクトリー項目の更新を許可されている場合は、項目の作成後にリスト情報を更新できます。ユーザーが既存のディレクトリー項目の更新を許可されていない場合は、リスト情報の更新は管理者のみが実行できます。詳しくは、『情報リストの作成』を参照してください。
5. 「**投入**」をクリックする。 項目が正常に追加されると通知されます。

注: 情報を入力中に、指定をやり直したくなった場合は、「**リセット (Reset)**」をクリックします。その後で、リセットをキャンセルして作業を続けることもできます。リセットの手続きを続行すると、ページはリセットされ、入力したすべての情報がクリアされてもう一度やり直すことができます。

#### 関連タスク

18 ページの『IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用した項目の変更』項目を更新するために、このトピックを使用します。

## 新規項目情報

ページ内のこのセクションでは、項目名とパスワードに関する情報を収集します。上部にある名前フィールドに入力した情報を使用して、その下にある一部のフィールドが事前充てんされます。ただし、これらの事前充てんされた値は、必要に応じて変更することもできます。指定したネーミング属性の値がすでに存在していたために要求が失敗する場合は、「**項目の追加**」ページに戻り、必要なフィールドを変更してからもう一度要求を試みてください。

パスワードを入力する場合には、正しく入力されたことを確認するために、パスワードを二度入力する必要があります。このパスワードは、忘れないようにメモしておいてください。

注: 項目の作成は、パスワードを関連付けずに行うこともできます。例えば、パスワードを指定せずに "Jane Jones" という項目を作成できます。この項目が作成された後、ユーザーは Jane Jones のリスト情報を検索したり表示できるようになりますが、Jane Jones というユーザーは、パスワードがないためこのアプリケーションにサインインできません。このタイプのディレクトリー・リストは、情報の提供のためだけに使用されます。ユーザー認証には使用できません。

## 情報リストの作成

ページ内のこのセクションでは、職業、電子メール・アドレス、電話番号、およびロケーションなどの追加情報を収集します。他のユーザーがディレクトリー・リストを参照したときに役立つ情報を、できるだけ多く入力してください。

「管理者 (Manager Name)」、「アシスタント名 (Assistant Name)」、および「代行者 (Backup Name)」を検索できるようにするには、これらの人物の項目を追加しておく必要があります。これらの人物のいずれかが見つからない場合、後でそれらの人物を追加するために項目を更新できます。これらのフィールドの隣に

ある「検索」をクリックすると、追加する人物を検索できる別ウィンドウが表示されます。追加する人物を選択すると、その人物の名前が「項目の追加」ページに自動的に保管されます。これらのいずれかのフィールドから名前を除去する場合は、そのフィールドの隣にある「削除」をクリックします。

ご使用のコンピューターから写真をアップロードして、リストの参照時に表示させることもできます。アップロードする写真は JPEG イメージ・ファイルにする必要があります。アップロードするファイルを選択するには、「参照... (Browse...)」をクリックして、ご使用のコンピューター内のアップロード対象ファイルにナビゲートします。ファイルをダブルクリックすると、ご使用のコンピューターのロケーションが自動的に「写真 (Photo)」フィールドに入力されます。ファイルをアップロードしない場合は、「写真 (Photo)」フィールドからファイル情報を削除してください。

## i5/OS システム・レジストリーからの複数項目の追加

IBM Telephone Directory V5.2 をインストールした後で、このアプリケーションが、i5/OS オペレーティング・システムにある特定の情報を使用できるようにすることができます。例えば、このオペレーティング・システムでは、システム配布ディレクトリーを、自分の Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリー・サーバーへ公開できます。情報を LDAP サーバーにインポートした後で、IBM Telephone Directory V5.2 でその情報にアクセスできるようになります。

System i ナビゲーターを使用して i5/OS にある情報を変更すると、このオペレーティング・システムはシステム配布ディレクトリーを自動的に LDAP ディレクトリー・サーバーへ公開します。データが公開される親 DN が存在しない場合は、LDAP ディレクトリー・サーバーによって親 DN が自動的に作成されます。

注: このステップは、Domino LDAP サーバーには当てはまりません。

i5/OS 内の情報を LDAP ディレクトリー・サーバーに公開できるようにサーバーを構成するには、以下のステップを実行します。

1. System i ナビゲーターで、サーバー名を右クリックし、「プロパティー」を選択する。
2. 「ディレクトリー・サービス (Directory Services)」タブをクリックする。
3. 「ユーザー (Users)」を選択する。
4. 「詳細」をクリックする。
5. 「ユーザー情報を公開する (Publish user information)」を選択する。
6. 公開する「ディレクトリー・サーバー (Directory server)」を指定する。
7. 「従属する DN (Under DN)」フィールドで、ディレクトリー・サーバーに追加したい情報の親識別名 (DN) を入力する。
8. サーバーで使用する「認証方式」と適切な認証情報を指定する。
9. ディレクトリー・サーバーがデフォルト・ポートを使用していない場合、「ポート」フィールドに正しいポート番号を入力する。
10. 「検索」をクリックして、親 DN がサーバーにあること、および接続情報が正しいことを確認する。ディレクトリー・パスが存在しない場合、作成を促すダイアログ・ボックスが表示されます。
11. 「OK」をクリックする。

注: システム配布ディレクトリーからユーザーを公開する場合には、作成されるユーザー項目に関連付けられるパスワード値はありません。項目にパスワードを設定するには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者が、ユーザー項目ごとに更新を行う必要があります。

関連概念

## .ldif ファイルを使用した複数項目の追加

IBM Telephone Directory V5.2 をインストールした後で、このアプリケーションが別の Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリー・サーバーにある特定の情報を使用できるようにすることができます。

既存の LDAP 情報を、別のサーバーから LDAP データ交換形式 (.ldif) ファイルへエクスポートして、ご使用の LDAP ディレクトリー・サーバーにそのファイルをインポートできます。情報を LDAP ディレクトリー・サーバーにインポートした後で、IBM Telephone Directory V5.2 でその情報にアクセスできるようになります。

注: このステップは、Domino LDAP サーバーには当てはまりません。

.ldif ファイルを LDAP ディレクトリー・サーバーにインポートするには、以下のステップを実行します。

1. LDAP 情報をエクスポートするサーバーを決定する。
2. System i ナビゲーターで、LDAP 情報をエクスポートするサーバーの「ネットワーク」を展開する。
3. 「サーバー」を展開する。
4. 「TCP/IP」をクリックする。
5. 「ディレクトリー」を右マウス・ボタン・クリックし、「ツール」を選択してから、「ファイルのエクスポート」を選択する。

注: エクスポートするロケーションを指定しない場合、.ldif ファイルは、i5/OS ユーザー・プロファイルに指定されているデフォルト・ディレクトリーに保管されます。デフォルト・ディレクトリーは、特に変更していなければ、ルート・ディレクトリーです。

6. LDAP 情報をインポートするサーバーを決定する。
7. そのサーバーのディレクトリー・サーバーが始動されている場合は停止させる。
8. System i ナビゲーターで、LDAP 情報をインポートするサーバーの「ネットワーク」を展開する。
9. 「サーバー」を展開する。
10. 「TCP/IP」をクリックする。
11. 「ディレクトリー」を右マウス・ボタン・クリックし、「ツール」を選択してから、「ファイルのインポート」を選択する。

## IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用した項目の変更

項目を更新するために、このトピックを使用します。

IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用して項目を更新するには、以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページにアクセスする。

`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/admin.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

2. 「IBM Telephone Directory」をクリックする。
3. 「ディレクトリー管理」タブをクリックする。



4. 「**検索対象**」フィールドに検索値を指定する。
5. 項目内で、「**項目の更新 (Update Entry)**」をクリックする。
6. 必要に応じて該当するフィールドを更新し、「**更新**」をクリックして変更を保管する。

#### 関連タスク

15 ページの『IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用した項目の追加』  
管理者は、「**項目の追加**」タブを使用して、ディレクトリーに項目を追加できます。

## IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用した項目の削除

項目を削除するために、このトピックを使用します。

IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用して項目を削除するには、以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページにアクセスする。

`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/admin.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

2. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
3. 「**ディレクトリー管理**」タブをクリックする。
4. 「**検索対象**」フィールドに検索値を指定する。
5. 項目内で、「**項目の削除 (Delete Entry)**」をクリックする。
6. 「**OK**」をクリックして、項目の削除の確認をする。

## 項目のパスワードの変更

このトピックで、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用して項目のパスワードを変更または設定します。

項目のパスワードを変更または設定するには、以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページにアクセスする。

`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/admin.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

2. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
3. 「**ディレクトリー管理**」タブをクリックする。
4. 「**検索対象**」フィールドに検索値を指定する。
5. 項目内で、「**項目の更新 (Update Entry)**」をクリックする。
6. 「**パスワードの変更 (Change Password)**」をクリックする。
7. パスワードを変更または設定し、「**投入**」をクリックする。

## パスワードの設定

管理者が、パスワードのない項目にパスワードを設定するときは、新規パスワードと確認パスワードのみを入力する必要があります。現行パスワードを入力する必要はありません (現行パスワードは存在しない)

め)。IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションは、ユーザーのクリデンシャル (ログイン時に指定するユーザー ID およびパスワード) を使用して、項目の新規パスワードを設定します。項目のパスワード・フィールドの設定をユーザーが許可されていない場合、この操作は失敗します。

## パスワードの変更

管理者がすでにパスワードのある項目のパスワードを変更するときには、その項目にパスワードが設定されている場合でも、現行パスワードを入力する必要はありません。新規パスワードと確認パスワードのみを入力する必要があります。IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションは、ユーザーのクリデンシャルを使用して、項目のパスワードを設定します。項目のパスワード・フィールドの設定をユーザーが許可されていない場合、この操作は失敗します。

注: 権限の設定は、IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションではなく、ディレクトリー・サーバーのアクセス制御リスト (ACL) によって定義され、制御されます。

## ディレクトリー・アクセスの変更

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションに対するユーザーのアクセス方法を変更するには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページにアクセスする。

`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/admin.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

2. 「IBM Telephone Directory」をクリックする。
3. 「アプリケーション・プロパティ」タブをクリックする。
4. 「ディレクトリー・アクセス (Directory access)」フィールドのドロップダウン・リストで、該当するオプションを選択する。
  - **匿名 (ログインなし) (Anonymous (no login))** - このオプションは、すべてのユーザーにディレクトリーの検索を許可するが、アプリケーションへのログインは許可しない場合に選択します。このオプションが選択されている場合、ディレクトリー検索要求は常に、匿名ユーザー権限により実行されます。ユーザーがアプリケーションにログインして項目の更新や削除を行ったり、自分の EIM ID アソシエーションを管理したり、Sametime 機能を使用することはできません。このオプションが選択されていると、ユーザーに対する項目の更新および削除の許可、EIM 登録および識別マッピング、Sametime チャット・リンク、Sametime 在席者リスト・サポートの各オプションを使用できません。
  - **ログイン可能 (Login Enabled)** - このオプションは、すべてのユーザーにディレクトリーの検索を許可し、別のアプリケーション用のユーザー ID およびパスワードを使用してこのアプリケーションへログインするオプションをユーザーに許可する場合に選択します。このオプションが選択されている場合、ディレクトリー検索要求は、「匿名」オプションの場合と同様に匿名ユーザー権限で実行されるほか、ユーザーは、アプリケーションにログインして項目の更新や削除を行ったり、自分の EIM ID アソシエーションを管理したり、Sametime 機能を使用することができます (使用可能な場合)。このオプションが選択されていると、ユーザーに対する項目の更新および削除の許可、EIM 登録および識別マッピング、Sametime チャット・リンク、Sametime 在席者リスト・サポートの各オプションを使用できます。

- **ログインが必要 (Login Required)** - このオプションは、アプリケーションを使用する前にログインするようユーザーに求める場合に選択します。このオプションが選択されている場合、ディレクトリー検索要求は、常にそのユーザーの権限で実行されます。ユーザーは、有効なユーザー ID とパスワードを入力しない限り、ディレクトリーの検索を行うことができず、また、アプリケーションのいかなるオプション機能も使用できません。このオプションが選択されていると、ユーザーに対する項目の更新および削除の許可、EIM 登録および識別マッピング、Sametime チャット・リンク、Sametime 在席者リスト・サポートの各オプションを使用できます。

5. 「**変更の保管 (Save Changes)**」をクリックする。

注: 項目には、パスワードがなくてもかまいません。パスワードのない項目を使用してログインしたり、項目の検索、更新、削除を行ったり、ログインを必要とする別のオプション機能を使用することはできません。ログインできるようにするには、項目にパスワードを設定してください。ログインできないようにするには、項目のパスワードを省略してください。パスワードのない項目を使用すると、特定の人物にログインを許可することなしに、それらの人物を検索して関連情報が表示されるようにすることができます。

「**ログイン可能 (Login Enabled)**」または「**ログインが必要 (Login Required)**」を構成するときには、関連リンクのオプションの設定について考慮してください。

#### 関連タスク

22 ページの『ユーザーに対する項目の更新および削除の許可』

ユーザーによる項目の更新および削除を許可するには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

24 ページの『EIM 登録および識別マッピングのセットアップ』

EIM (エンタープライズ識別マッピング) 登録および識別マッピングを使用すると、ユーザーは EIM ドメイン・サーバーに登録して、自身の識別マッピングをオンラインで管理できます。

25 ページの『Sametime チャット・リンク (STLink) サポートのセットアップ』

Lotus Sametime を使用してユーザー同士でインスタント・メッセージをやりとりできるようにするには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

26 ページの『Sametime 在席者リスト・サポートのセットアップ』

ユーザーが Lotus Sametime 在席者リスト (メンバーリストとも呼ばれる) に項目を追加できるようにするには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

## アプリケーションの登録プロパティーの変更

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションの登録プロパティーを変更するには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページにアクセスする。

`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/admin.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

2. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
3. 「**アプリケーション・プロパティー**」タブをクリックする。
4. 「**オープン登録 (Open enrollment)**」フィールドの隣にあるチェック・ボックスにチェックマークを付ける。

5. 「**ユーザー (User)**」フィールドに、新規ディレクトリー項目の作成に使用するユーザー ID を入力する。「**パスワード (Password)**」フィールドに、そのユーザー ID のパスワードを入力する。「**確認パスワード (Confirm Password)**」フィールドに同じパスワードを入力する。
6. 「**変更を投入 (Submit Changes)**」をクリックする。

オープン登録が構成されている場合、ユーザーは、自分自身の項目の更新や削除 (パスワード変更を含む)、およびアクセス可能な項目の更新や削除を行うことができます。ユーザーは、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページではなく IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションを使用して変更を行うことができます。

## ユーザーに対する項目の更新および削除の許可

ユーザーによる項目の更新および削除を許可するには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページにアクセスする。

`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/admin.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

2. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
3. 「**アプリケーション・プロパティ**」タブをクリックする。
4. 「**ディレクトリー・アクセス (Directory access)**」フィールドで、「**ログイン可能 (Login Enabled)**」または「**ログインが必要 (Login Required)**」が選択されていることを確認する。
5. 「**ユーザーに対する項目の更新および削除の許可 (ログインが必要) (Allow users to update and delete entries (requires login))**」フィールドの隣にあるチェック・ボックスにチェックマークを付ける。
6. 「**変更の保管 (Save Changes)**」をクリックする。

これで、ユーザーは、IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションで項目の更新および削除ができるようになります。

### 関連タスク

20 ページの『ディレクトリー・アクセスの変更』

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションに対するユーザーのアクセス方法を変更するには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

24 ページの『EIM 登録および識別マッピングのセットアップ』

EIM (エンタープライズ識別マッピング) 登録および識別マッピングを使用すると、ユーザーは EIM ドメイン・サーバーに登録して、自身の識別マッピングをオンラインで管理できます。

## 項目の最大検索サイズの変更

検索結果として表示される項目の最大数を変更するには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページにアクセスする。

`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/admin.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

2. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
3. 「**アプリケーション・プロパティ**」タブをクリックする。
4. 「**最大検索サイズ (Maximum search size)**」フィールドで、検索時に表示される項目の最大数を指定する (単位: 項目数)。
5. 「**変更の保管 (Save Changes)**」をクリックする。

## 最大検索時間の変更

アプリケーションによる項目検索時の最大検索時間を変更するには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページにアクセスする。

`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/admin.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

2. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
3. 「**アプリケーション・プロパティ**」タブをクリックする。
4. 「**最大検索時間 (Maximum search time)**」フィールドで、許可する最大検索時間を指定する (単位: 秒)。
5. 「**変更の保管 (Save Changes)**」をクリックする。

## 最大写真サイズの変更

アプリケーションで表示される最大写真サイズを変更するには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページにアクセスする。

`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/admin.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

2. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
3. 「**アプリケーション・プロパティ**」タブをクリックする。
4. 「**最大写真サイズ (Maximum photo size)**」フィールドで、アプリケーション内で許可する最大写真サイズを指定する (単位: バイト)。
5. 「**変更の保管 (Save Changes)**」をクリックする。



## EIM 登録および識別マッピングのセットアップ

EIM (エンタープライズ識別マッピング) 登録および識別マッピングを使用すると、ユーザーは EIM ドメイン・サーバーに登録して、自身の識別マッピングをオンラインで管理できます。

注: EIM 登録および識別マッピングを使用可能にする前に、『EIM (エンタープライズ識別マッピング) サーバーとの対話』で、IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションによる EIM の使用方法、およびアプリケーションでの EIM 統合における制限に関する情報を参照してください。

EIM 登録および識別マッピングをセットアップするには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。以下のステップを実行します。

1. ご使用の iSeries サーバーで EIM (エンタープライズ識別マッピング) がセットアップされていることを確認する。
2. IBM Welcome Page V1.1 アプリケーションで EIM プロパティが構成されていることを確認する。詳しくは、「IBM Welcome Page V1.1 の管理」トピックの『EIM (エンタープライズ識別マッピング) プロパティの管理』を参照してください。
3. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページにアクセスする。

`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/admin.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

4. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
5. 「**アプリケーション・プロパティ**」タブをクリックする。
6. 「**ディレクトリー・アクセス (Directory access)**」フィールドで、「**ログイン可能 (Login Enabled)**」または「**ログインが必要 (Login Required)**」が選択されていることを確認する。
7. 「**ユーザーに対する項目の更新および削除の許可 (ログインが必要) (Allow users to update and delete entries (requires login))**」フィールドにチェックマークが付いていることを確認する。
8. 「**EIM 登録および識別マッピング (EIM registration and identity mapping)**」フィールドの隣にあるチェック・ボックスにチェックマークを付ける。
9. 「**変更の保管 (Save Changes)**」をクリックする。

これで、ユーザーは、EIM ドメイン・サーバーに登録して、自分の識別マッピングをオンラインで管理できるようになります。

### 関連概念

9 ページの『EIM (エンタープライズ識別マッピング) サーバーとの対話』

iSeries で EIM (エンタープライズ識別マッピング) を使用すると、管理者およびアプリケーション開発者は、企業内で複数のユーザー・レジストリーを管理する際の問題を解決できます。

### 関連タスク

20 ページの『ディレクトリー・アクセスの変更』

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションに対するユーザーのアクセス方法を変更するには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

22 ページの『ユーザーに対する項目の更新および削除の許可』

ユーザーによる項目の更新および削除を許可するには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

34 ページの『EIM レジストリーの管理』

アプリケーション管理者がアプリケーションで EIM サポートを使用可能にしている場合、ユーザーは EIM レジストリーを管理できます。EIM サポートのセットアップは、管理者のみが実行できます。

## Sametime チャット・リンク (STLink) サポートのセットアップ

Lotus Sametime を使用してユーザー同士でインスタント・メッセージをやりとりできるようにするには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

以下のステップを実行します。

1. ご使用の iSeries サーバーに Lotus Sametime がインストールされていて、構成されていることを確認する。
2. IBM Welcome Page V1.1 アプリケーションで Sametime プロパティが構成されていることを確認する。詳しくは、「IBM Welcome Page V1.1 の管理」のトピックの『**Lotus Sametime プロパティの管理**』を参照してください。
3. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページにアクセスする。

`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/admin.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

4. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
5. 「**アプリケーション・プロパティ**」タブをクリックする。
6. 「**ディレクトリー・アクセス (Directory access)**」フィールドで、「**ログイン可能 (Login Enabled)**」または「**ログインが必要 (Login Required)**」が選択されていることを確認する。
7. 「**Sametime チャット・リンク (STLink) (Sametime chat links (STLinks))**」フィールドの隣にあるチェック・ボックスにチェックマークを付ける。
8. 「**変更の保管 (Save Changes)**」をクリックする。

これで、ユーザーは IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションで、Lotus Sametime を使用して他のユーザーとインスタント・メッセージをやりとりできるようになります。

### 関連概念

8 ページの『Lotus Sametime サーバーとの対話』

Lotus Sametime は、リアルタイムのコラボレーション・ソフトウェアであり、オンライン認識、インスタント・メッセージ処理システム、アプリケーション 共有、仮想ミーティングなどの機能を備えています。

### 関連タスク

20 ページの『ディレクトリー・アクセスの変更』

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションに対するユーザーのアクセス方法を変更するには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

33 ページの『項目を使用した Sametime チャットの開始』

アプリケーション管理者がアプリケーションでの Sametime サポートを使用可能にしている場合、ユーザーは項目を使用して、Sametime チャットを開始できます。Sametime サポートのセットアップは、管理者のみが実行できます。

## Sametime 在席者リスト・サポートのセットアップ

ユーザーが Lotus Sametime 在席者リスト (メンバーリストとも呼ばれる) に項目を追加できるようにするには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

以下のステップを実行します。

1. ご使用の iSeries サーバーに Lotus Sametime がインストールされていて、構成されていることを確認する。
2. IBM Welcome Page V1.1 アプリケーションで Sametime プロパティが構成されていることを確認する。詳しくは、「IBM Welcome Page V1.1 の管理」のトピックの『**Lotus Sametime プロパティの管理**』を参照してください。
3. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページにアクセスする。

`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/admin.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

4. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
5. 「**アプリケーション・プロパティ**」タブをクリックする。
6. 「**ディレクトリー・アクセス (Directory access)**」フィールドで、「**ログイン可能 (Login Enabled)**」または「**ログインが必要 (Login Required)**」が選択されていることを確認する。
7. 「**Sametime メンバーリスト・サポート (Sametime buddy list support)**」フィールドの隣にあるチェック・ボックスにチェックマークを付ける。
8. 「**変更の保管 (Save Changes)**」をクリックする。

これで、ユーザーは IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションで、Lotus Sametime コンタクト・リストに項目を追加できるようになります。

### 関連概念

8 ページの『Lotus Sametime サーバーとの対話』

Lotus Sametime は、リアルタイムのコラボレーション・ソフトウェアであり、オンライン認識、インスタント・メッセージ処理システム、アプリケーション 共有、仮想ミーティングなどの機能を備えています。

### 関連タスク

20 ページの『ディレクトリー・アクセスの変更』

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションに対するユーザーのアクセス方法を変更するには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

33 ページの『Sametime 在席者リストへの項目の追加』

アプリケーション管理者がアプリケーションでの Sametime サポートを使用可能にしている場合、ユーザーは Sametime 在席者リストに項目を追加できます。Sametime サポートのセットアップは、管理者のみが実行できます。

---

## IBM Telephone Directory V5.2 の使用

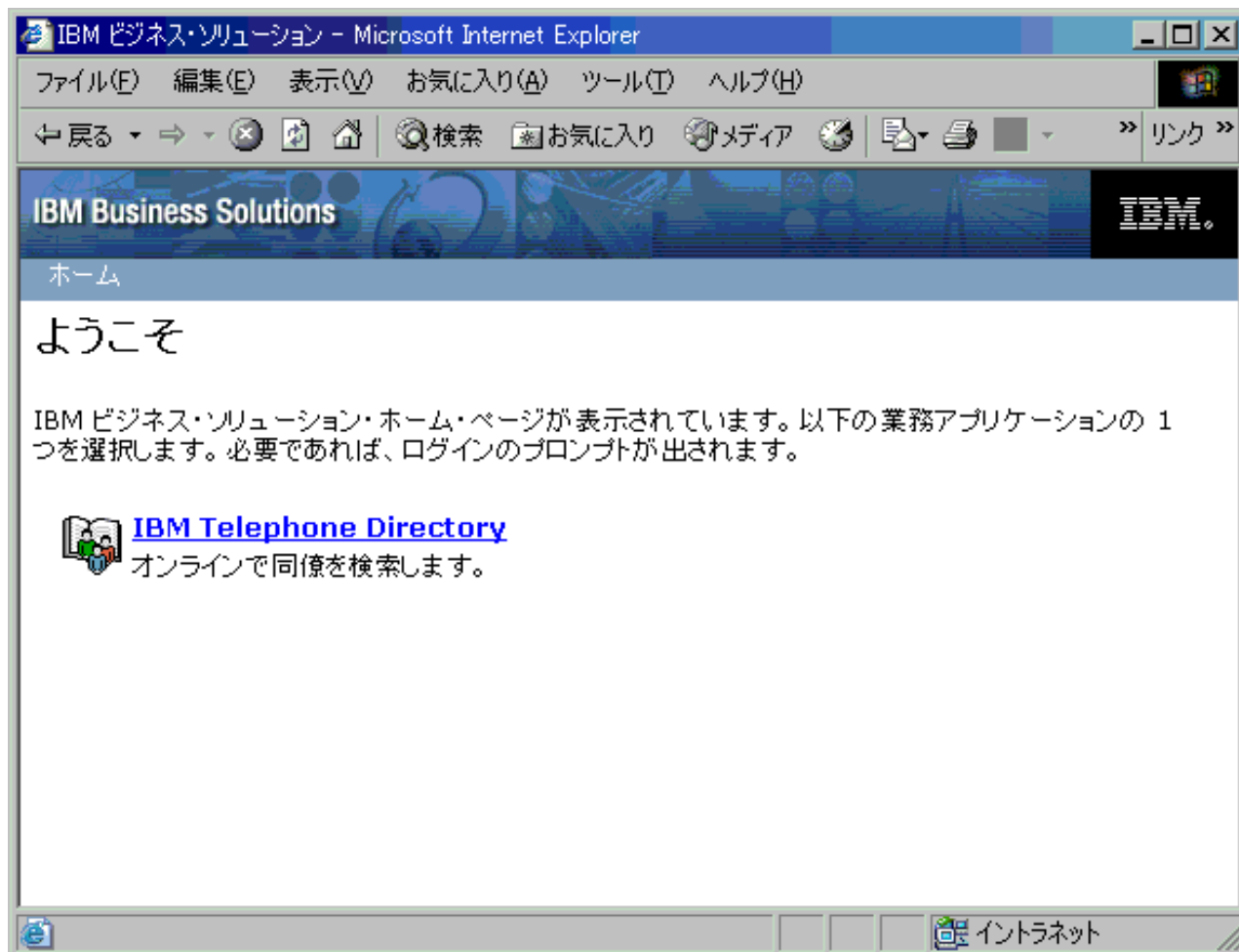
このトピックでは、ご使用のアプリケーションでの検索、パスワードの変更、項目の更新および削除などの方法や、Sametime および EIM 統合の使用方法などを含む、IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションの使用方法について説明します。



IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションにアクセスするには、Web ブラウザーに次の URL を入力します。

`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/home.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。



IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションの使用方法についての詳細は、以下のトピックを参照してください。

#### 関連概念

13 ページの『IBM Telephone Directory V5.2 の管理』

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションの管理者は、このトピックを参照してください。アプリケーション項目およびアプリケーション・プロパティを管理する方法について説明します。

## 項目の検索

アプリケーションでの基本的な検索および拡張検索の実行方法に関する情報を説明しています。

名前、職責、電子メール・アドレス、電話番号でディレクトリー・リストを検索するには、多くの場合、検索バーの使用が適しています。また、後述する拡張検索フォームもあります。このフォームでは、検索オプションが少し増えます。

簡単な検索を実行するには、以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory アプリケーションにアクセスする。  
`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/home.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

2. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
3. ユーザー ID とパスワードを入力する (該当する場合)。
4. 「**検索**」をクリックする。
5. 「**検索先**」フィールドおよび「**検索対象**」フィールドに、検索基準を入力する。
6. 「**検索**」をクリックする。

簡単な検索の例を以下に示します。名前を検索する場合、検索テキストでは、最初に必ず姓を入力します。また、検索では大文字小文字の区別がないため、大文字を使用しても小文字を使用してもかまいません。

- 検索先: 名前
  - 検索対象: van damme,jean
  - 検索対象: van damme,j
  - 検索対象: van d\*m\*.j
  - 検索対象: van damme
  - 検索対象: van
- 検索先: 職責
  - 検索対象: DB2<sup>®</sup> サポート
- 検索先: E メール・アドレス
  - 検索対象: johndoe@us.ibm.com
  - 検索対象: johndoe\*
- 検索先: 電話番号
  - 検索対象: 1-845-894-1234
  - 検索対象: \*894-1234
  - 検索対象: \*1234

#### 関連タスク

35 ページの『追加機能での作業』

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションでは、検索項目の追加情報を表示できます。

## ワイルドカード文字 (\*) の使用

アプリケーション内の検索におけるワイルドカード文字「\*」の使用方法

検索テキスト内の任意の箇所で、アスタリスク (\*) をワイルドカード文字として使用できます (例: Dund\*,C)。ワイルドカード文字は、ゼロまたは 1 個以上の文字のサブストリングを表します。検索テキストの先頭にワイルドカード文字を使用した場合 (例: \*dee,C)、応答時間が長くなる場合があることに注意してください。

## 名前による検索の追加情報

アプリケーションで、名前による検索を行う際の情報を説明しています。

最初に姓を指定し、その後にオプションで名を指定してください。姓と名の区切りにコンマ（「,」）を使用した場合、姓は省略されていない完全なものとなされます（例: McDonald,R）。姓の一部のみを指定する場合は、姓と名の区切りにスペースを使用する（例: McDon R）か、または姓の中でワイルドカード文字を使用してからコンマ「,」を指定します（例: McDon\*,R）。

例えば、Frank Santiago という名前の従業員を検索するとします。

- 以下のいずれを入力しても、この人物が検出されます。
  - santiago,f
  - santiago
  - sant
  - sant F
  - sant\*,F
- 以下のように入力した場合、この人物は検出されません。
  - sant,f

## 拡張検索

アプリケーションでの拡張検索の実行方法に関する情報を説明しています。

拡張検索フォームではさらに細かい制御が可能であり、検索基準としてより多くのオプションを使用できるほか、複数のフィールドを同時に検索することもできます。ただし、入力した文字列がそのまま、完全一致の突き合わせに使用される点に注意してください。つまり、ワイルドカード検索を行う場合には、ワイルドカード「\*」を追加することが必要となります。例えば、「姓 (Last Name)」フィールドに「D」とだけ入力した場合、John Doe という名前の人物は検出されません。この点は、「D」と入力すると John Doe が検出される検索バーとは異なります。拡張検索で John Doe という名前の人物を検索するには、明示的に「D\*」と入力してください。

以下は、拡張検索の例です。

- 姓: doe
- 名前: j\*
- 電子メール: jdoe@us.ibm.com

## 結果の表示

アプリケーションでの検索結果の表示に関する情報を説明しています。

IBM Telephone Directory は、アプリケーション管理者の設定した最大検索サイズを超えない限り、一致したすべての検索結果のリストを戻します。検索で一致するものが複数戻された場合は、検索対象のリストに最も近いものを選択してください。結果として戻された個人のディレクトリーの全情報を参照するには、その人物の名前をクリックします。ご使用のブラウザで電子メールの送信についての設定が適切に構成されている場合、その人物の電子メール・アドレスをクリックすると、その人物にメモを送信することができます。ブラウザによっては、電子メール・クライアントを備えていないことがあり、そのようなブラウザではこの機能は使用できません。

## IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションを使用した項目の追加

アプリケーションでの項目の追加方法と、特定のフィールドでの規則について説明しています。

「項目の追加」ページを使用すると、ユーザーがディレクトリーに項目を追加できます。このページへのリンクは、管理者が事前にアプリケーションにオープン登録をセットアップしている場合にのみ、ユーザーに

表示されます。オープン登録がセットアップされていない場合はリンクが表示されず、管理者以外のユーザーは「項目の追加」ページを使用できません。「項目の追加」ページを使用して追加された項目には、名前、ロケーション、連絡先情報などの情報を入れることができます。項目が作成されると、ユーザーはその項目のリスト情報を検索したり、参照できるようになります。

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションに項目を追加するには、以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory アプリケーションにアクセスする。

`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/home.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

2. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
3. 「**項目の追加**」をクリックする。
4. 「**項目の追加**」ページで適切な基準を入力する。項目の基準には、新規項目情報とリスト情報という 2 つのセクションがあります。
  - 新規項目情報は、項目の作成に使用されます。項目を作成した後でこの情報を更新することはできません (項目のパスワードを除く)。詳しくは、『**新規項目情報**』を参照してください。
  - リスト情報は、新規項目が作成された後で収集されて、新規項目とともに保管され、ユーザーがディレクトリー情報を検索すると表示されます。ユーザーが管理者から既存のディレクトリー項目の更新を許可されている場合は、項目の作成後にリスト情報を更新できます。ユーザーが既存のディレクトリー項目の更新を許可されていない場合は、リスト情報の更新は管理者のみが実行できます。詳しくは、『**情報リストの作成**』を参照してください。
5. 「**投入**」をクリックする。項目が正常に追加されると通知されます。

注:

1. パスワードは必要ありません。パスワードのない項目では、リスト情報は表示できますが、この項目を使用してログインすることはできません。
2. 情報を入力中に、指定をやり直したくなった場合は、「**リセット (Reset)**」をクリックします。その後で、リセットをキャンセルして作業を続けることもできます。リセットの手続きを続行すると、ページはリセットされ、入力したすべての情報がクリアされてもう一度やり直すことができます。

## 新規項目情報

ページ内のこのセクションでは、項目名とパスワードに関する情報を収集します。上部にある名前フィールドに入力した情報を使用して、その下にある一部のフィールドが事前充てんされます。

ただし、これらの事前充てんされた値は、必要に応じて変更することもできます。指定したネーミング属性の値がすでに存在していたために要求が失敗する場合は、「**項目の追加**」ページに戻り、必要なフィールドを変更してからもう一度要求を試みてください。

パスワードを入力する場合には、正しく入力されたことを確認するために、パスワードを二度入力する必要があります。このパスワードは、忘れないようにメモしておいてください。

## 情報リストの作成

ページ内のこのセクションでは、職業、電子メール・アドレス、電話番号、およびロケーションなどの追加情報を収集します。他のユーザーがディレクトリー・リストを参照したときに役立つ情報を、できるだけ多く入力してください。

「管理者 (Manager Name)」、「アシスタント名 (Assistant Name)」、および「代行者 (Backup Name)」を検索できるようにするには、これらの人物の項目を追加しておく必要があります。これらの人物のいずれかが見つからない場合、後でそれらの人物を追加するために項目を更新できます。これらのフィールドの隣にある「検索」をクリックすると、追加する人物を検索できる別ウィンドウが表示されます。追加する人物を選択すると、その人物の名前が「項目の追加」ページに自動的に保管されます。これらのいずれかのフィールドから名前を除去する場合は、そのフィールドの隣にある「削除」をクリックします。

ご使用のコンピューターから写真をアップロードして、リストの参照時に表示させることもできます。アップロードする写真は JPEG イメージ・ファイルにする必要があります。アップロードするファイルを選択するには、「参照... (Browse...)」をクリックして、ご使用のコンピューター内のアップロード対象ファイルにナビゲートします。ファイルをダブルクリックすると、ご使用のコンピューターのロケーションが自動的に「写真 (Photo)」フィールドに入力されます。ファイルをアップロードしない場合は、「写真 (Photo)」フィールドからファイル情報を削除してください。

## IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションを使用した項目の変更

アプリケーション管理者がユーザーにディレクトリー項目の更新を許可している場合、ユーザーは検索項目を更新できます。

ユーザーに項目の更新が許可されている場合、リンクが表示されていれば、ユーザーはそのリンクを使用してディレクトリー項目を更新することができます。項目の最初の作成時に指定された値の大半を更新できません。

項目を更新するには、以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory アプリケーションにアクセスする。  
`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/home.do`  
ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。
2. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
3. 「**検索**」をクリックする。
4. 検索対象の基準を入力して、「**検索**」をクリックする。
5. 検索結果リストで、「**項目の更新 (Update Entry)**」をクリックする。必要な場合には、ユーザー ID とパスワードを入力します。
6. 項目に加える変更を指定して、「**OK**」をクリックする。

注: 通常、ディレクトリー内にある項目の更新や削除が許可されるのは、アプリケーション管理者のみです。

## IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションを使用した項目の削除

アプリケーション管理者がユーザーにディレクトリー項目の削除を許可している場合、ユーザーは検索項目を削除できます。

ユーザーに項目の削除が許可されている場合、リンクが表示されていれば、ユーザーはそのリンクを使用してディレクトリー項目を削除したり、ディレクトリーからすべての関連するリスト情報を除去することができます。

項目を削除するには、以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory アプリケーションにアクセスする。



`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/home.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

2. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
3. 「**検索**」をクリックする。
4. 検索対象の基準を入力して、「**検索**」をクリックする。
5. 「**項目を削除 (Delete Entry)**」をクリックする。 必要な場合には、ユーザー ID とパスワードを入力します。
6. 「**OK**」をクリックする。

注: 通常、ディレクトリー内にある項目の更新や削除が許可されるのは、アプリケーション管理者のみです。

## IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションを使用したパスワードの変更

アプリケーション管理者がユーザーにユーザー所有のディレクトリー項目を更新することを許可している場合、ユーザーはパスワードを変更できます。

パスワードを変更するには、以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory アプリケーションにアクセスする。  
`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/home.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

2. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
3. 「**検索**」をクリックする。
4. 検索基準 (姓など) を入力して、「**検索**」をクリックする。
5. 項目内で、「**項目の更新 (Update Entry)**」をクリックする。 必要な場合には、ユーザー ID とパスワードを入力します。
6. 「**パスワードの変更 (Change Password)**」をクリックする。
7. パスワードを変更して、「**投入**」をクリックする。

### パスワードの設定

ユーザー (非管理者) が、パスワードのない項目にパスワードを設定するときには、新規パスワードと確認パスワードのみを入力してください。現行パスワードを入力する必要はありません (現行パスワードは存在しないため)。IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションは、ユーザーのクリデンシャル (ログイン時に指定するユーザー ID およびパスワード) を使用して、項目の新規パスワードを設定します。項目のパスワード・フィールドの設定をユーザーが許可されていない場合、この操作は失敗します。

### パスワードの変更

ユーザー (非管理者) が、すでにパスワードのある項目のパスワードを変更するときには、現行パスワード、新規パスワード、および確認パスワードを入力する必要があります。IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションは、ユーザーが入力するクリデンシャル (現行パスワード) を使用して、項目のパスワード

を変更します。パスワードの変更は、ユーザー自身のパスワードではなく、項目の権限を使用して行います (ユーザー自身のパスワードを変更する場合を除く)。現行パスワードを入力しないと、この操作は失敗します。

注: 権限の設定は、IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションではなく、ディレクトリー・サーバーのアクセス制御リスト (ACL) によって定義され、制御されます。

## Sametime 在席者リストへの項目の追加

アプリケーション管理者がアプリケーションでの Sametime サポートを使用可能にしている場合、ユーザーは Sametime 在席者リストに項目を追加できます。Sametime サポートのセットアップは、管理者のみが実行できます。

Sametime コンタクト・リスト (メンバーリストとも呼ばれる) に項目を追加するには、以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory アプリケーションにアクセスする。  
`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/home.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

2. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
3. 「**検索**」をクリックする。
4. 検索基準 (姓など) を入力して、「**検索**」をクリックする。
5. 項目内で、「**メンバーリストに追加 (Add to Buddy List)**」をクリックする。
6. 追加先の Sametime グループを指定して、「**OK**」をクリックする。
7. 「**OK**」をクリックして IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションに戻る。

その人物の名前が Sametime メンバーリストに追加されます。

### 関連概念

8 ページの『Lotus Sametime サーバーとの対話』

Lotus Sametime は、リアルタイムのコラボレーション・ソフトウェアであり、オンライン認識、インスタント・メッセージ処理システム、アプリケーション 共有、仮想ミーティングなどの機能を備えています。

### 関連タスク

26 ページの『Sametime 在席者リスト・サポートのセットアップ』

ユーザーが Lotus Sametime 在席者リスト (メンバーリストとも呼ばれる) に項目を追加できるようにするには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

## 項目を使用した Sametime チャットの開始

アプリケーション管理者がアプリケーションでの Sametime サポートを使用可能にしている場合、ユーザーは項目を使用して、Sametime チャットを開始できます。Sametime サポートのセットアップは、管理者のみが実行できます。

Sametime チャットを開始するには、以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory アプリケーションにアクセスする。  
`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/home.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

2. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
3. 「**検索**」をクリックする。
4. 検索基準 (姓など) を入力して、「**検索**」をクリックする。
5. 項目内で、Sametime チャットを開始する相手の名前をクリックする。

注: その人物の名前がハイパーリンクされておらず、名前の隣に Sametime 状況アイコンが表示されていない場合、その人物は Sametime にログオンしていません。その人物と Sametime チャットを開始することはできません。

### 関連概念

8 ページの『Lotus Sametime サーバーとの対話』

Lotus Sametime は、リアルタイムのコラボレーション・ソフトウェアであり、オンライン認識、インスタント・メッセージ処理システム、アプリケーション 共有、仮想ミーティングなどの機能を備えています。

### 関連タスク

25 ページの『Sametime チャット・リンク (STLink) サポートのセットアップ』

Lotus Sametime を使用してユーザー同士でインスタント・メッセージをやりとりできるようにするには、IBM Telephone Directory V5.2 の管理者ページを使用します。

## EIM レジストリーの管理

アプリケーション管理者がアプリケーションで EIM サポートを使用可能にしている場合、ユーザーは EIM レジストリーを管理できます。EIM サポートのセットアップは、管理者のみが実行できます。

ユーザーが管理できるのは、自分の EIM レジストリーのみです。ユーザーがログインして自分のディレクトリー・リストを更新する場合、IBM Telephone Directory V5.2 には EIM レジストリー情報のみが表示されます。

自分の EIM レジストリーを管理するには、以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory アプリケーションにアクセスする。  
`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/home.do`  
  
ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。
2. 「**IBM Telephone Directory**」をクリックする。
3. 「**検索**」をクリックする。
4. 検索基準 (姓など) を入力して、「**検索**」をクリックする。
5. 項目内で、「**プロファイルの更新 (Update Profile)**」をクリックする。必要な場合には、ユーザー ID とパスワードを入力します。
6. 「**プロファイルの更新 (Update Profile)**」ページで、「**EIM 登録 (EIM registrations)**」テーブルを見つける。
7. 識別マッピングを追加するには、「**追加**」をクリックする。「**EIM レジストリーの追加 (Add an EIM registry)**」ページで、次の値を指定します。
  - a. 「**システム (System)**」フィールドで、識別マッピングを追加するシステムを選択する。
  - b. 「**ユーザー ID (User ID)**」フィールドに、選択したシステムに必要なユーザー ID を入力する。



- c. 「パスワード (Password)」フィールドに、ユーザー ID に関連したパスワードを入力する。
  - d. 「投入」をクリックする。
  - e. 「OK」をクリックして、「EIM レジストリーの追加 (Add an EIM registry)」ページに戻る。必要な場合は、さらに EIM レジストリーを追加します。「キャンセル (Cancel)」をクリックして IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションに戻る。
8. レジストリーを除去するには、除去するレジストリーを選択して、「除去 (Remove)」をクリックする。「OK」をクリックして、削除を確認します。

#### 関連タスク

24 ページの『EIM 登録および識別マッピングのセットアップ』

EIM (エンタープライズ識別マッピング) 登録および識別マッピングを使用すると、ユーザーは EIM ドメイン・サーバーに登録して、自身の識別マッピングをオンラインで管理できます。

## 追加機能での作業

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションでは、検索項目の追加情報を表示できます。

「マネージャーが同一 (Have Same Manager)」、「管理チェーンの表示 (View Management Chain)」、および「直属メンバーの表示 (View Direct Report Members)」などの検索項目の追加情報を表示するには、以下のステップを実行します。

1. Web ブラウザーに次の URL を入力して IBM Telephone Directory アプリケーションにアクセスする。

`http://your.server.name:port/ibm-bizApps/welcome/home.do`

ここで、*your.server.name* は IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされているサーバーの名前であり、*port* はインストール時に指定したポート番号です。

2. 「IBM Telephone Directory」をクリックする。
3. 「検索」をクリックする。
4. 検索対象の基準を入力して、「検索」をクリックする。
5. 検索結果のリストでは、以下の追加機能を実行できる。

#### 部門メンバーの表示

その項目の人物と同じ部門に属するすべてのメンバーのリストを表示します。このリンクが使用できない場合は、現在表示されているリストに部門番号またはコードが指定されていません。

#### 管理チェーンの表示

その人物の管理報告構造のリストを表示します。リストは昇順で表示され、その人物のリストが一番下の項目となります。このリンクが使用できない場合は、現在表示されているリストにマネージャーが指定されていません。

#### 直属メンバーの表示

現在表示されている人物に直属するすべてのメンバーのリストを表示します。このリンクが使用できない場合は、現在表示されているリストがマネージャーのものではありません。

#### 関連タスク

27 ページの『項目の検索』

アプリケーションでの基本的な検索および拡張検索の実行方法に関する情報 を説明しています。

---

## IBM Telephone Directory V5.2 のトラブルシューティング

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションに関するトラブルシューティング情報を提供します。

IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションの使用に関する問題のトラブルシューティングを開始する前に、以下の点を確認してください。アプリケーションの使用時における一部の共通問題の解決に役立つ場合があります。

- 前提条件となる製品はすべてインストールされているか。詳しくは、IBM Welcome Page V1.1 のトピックの『前提条件の確認』を参照してください。
- Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバーは始動されているか？
- IBM Welcome Page アプリケーションは開始しているか。
- IBM Telephone Directory アプリケーションは開始しているか。
- アプリケーション・サーバーは始動しているか。
- HTTP サーバーは始動しているか。

アプリケーションに関する問題がまだ解決していない場合は、以下の情報を参照してください。

### セットアップのトラブルシューティング

| 問題  | 原因   | 解決策                       |
|---|--|---------------------------|
| プリインストールおよび事前構成された iSeries サーバーで GO LICPGM コマンドを実行しても、IBM Business Solutions (5722-BZ1) がリストされない。 | ご使用のサーバーに IBM Telephone Directory V5.2 がインストールされていません。 | 5722-BZ1 製品をインストールしてください。 |

### 認証のトラブルシューティング

| 問題       | 原因  | 解決策  |
|----------|---|--|
| ログインできない | このアプリケーションでは、ユーザー ID とパスワードに、HTTP サーバーが使用するジョブ CCSID にマップする文字が含まれている必要があります。含まれていない場合、認証に失敗します。 | 使用する文字が、HTTP サーバーによって使用されるジョブ CCSID にマップすることを確認してください。HTTP サーバーのジョブ CCSID を確認するには、CL コマンド行に WRKACTJOB を入力して、「ジョブ定義属性の表示 (Display job definition attributes)」を選択します。HTTP サーバーの CCSID は、HTTP サーバーの defaultFSCSID ディレクティブで決定されます。詳しくは、『注意と制限』を参照してください。 |

| 問題                           | 原因  | 解決策   |
|------------------------------|---|---|
| URL が失敗する、またはアプリケーションが表示されない | IBM Welcome Page アプリケーションを開始していないと、URL ( <a href="http://your.server.name:port/ibmbizApps/welcome-home.do">http://your.server.name:port/ibmbizApps/welcome-home.do</a> または <a href="http://your.server.name:port/ibmbizApps/welcome-admin.do">http://your.server.name:port/ibmbizApps/welcome-admin.do</a> ) は失敗します。また、IBM Welcome Page アプリケーションを開始しているが、IBM Telephone Directory アプリケーションは開始していないという場合にも、問題が発生します。IBM Telephone Directory アプリケーションが実行中でなければ、Welcome Page アプリケーションは IBM Telephone Directory アプリケーションにリンクできません。 | IBM Welcome Page アプリケーションと IBM Telephone Directory アプリケーションを開始してください。   |
| アプリケーションへの要求が失敗する            | WebSphere Application Server に組み込まれている内部 HTTP サーバーを使用して IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションを参照した場合、アプリケーションに対する一部の要求が失敗します。   | アプリケーションを参照するには、関連付けられた IBM HTTP Server を使用しなければなりません。新規アプリケーション・サーバー・インスタンスの作成時に、LDAP サーバー認証のためのセキュリティ・ディレクティブがセットアップされ、IBM Telephone Directory アプリケーションがこれが必要とします。WebSphere Application Server の内部 HTTP サーバーでは、必要となるセキュリティ・ディレクティブがセットアップされていないため、内部 HTTP サーバーを使用すると、アプリケーションに対する一部の要求が失敗します。詳しくは、『IBMHTTP Server i5/OS との対話』を参照してください。 |

## 使用法のトラブルシューティング

| 問題                   | 原因  | 解決策   |
|----------------------|---|---|
| アプリケーションへのリンクが欠落している | URL 「 <a href="http://your.server.name:port/ibmbizApps/welcome/home.do">http://your.server.name:port/ibmbizApps/welcome/home.do</a> 」は、IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションを始めとする IBM Business Solutions へのエントリー・ポイントです。 | IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションへのリンクが欠落している場合は、IBM Welcome Page アプリケーションと IBM Telephone Directory アプリケーションの両方が開始されていることを確認してください。 |

| 問題                       | 原因  | 解決策   |
|--------------------------|---|---|
| 管理ユーザー ID がわからない         | クローズの登録環境で、ユーザー (管理者) が、ユーザーについての更新や登録を行う必要がある場合にアプリケーションへ認証用に入力する必要があるユーザー ID がわからなくなることがあります。   | デフォルトのユーザー ID は <b>Administrator</b> であり、パスワードはインストール時にセットアップしたパスワードです。個人のユーザー ID とパスワードは入力しないでください。アプリケーション・ユーザー ID は、常時、誰に対しても表示可能です。項目のユーザー ID がわからない場合は、アプリケーションの検索ページを使用して項目を探します。ユーザー ID は、ピクチャーの下に表示されません。 |
| 検索または登録時に内部サーバー・エラーが発生する | ユーザーを検索または登録しようとした際に「HTTP 500 - 内部サーバー・エラー (HTTP 500 - Internal Server Error)」が発生する場合、設定ファイルが壊れている可能性があります。IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションが、IBM Telephone Directory アプリケーションの関連構成ファイルを検出できていないことが考えられます。          | IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションを再インストールしてください。  |
| 検索時にシステム・エラーが発生する        | ユーザーを検索しようとして、「システム・エラーが発生しました。時間を置いてもう一度実行してください (A system error has occurred! Try again later)」というエラーが発生する場合は、通常、LDAP サーバーが始動していないことを示しています。  | LDAP サーバーを始動して、再度検索を試行してください。   |
| 登録時にオペレーション失敗のエラーが発生する   | ユーザーを登録しようとして「エラー: オペレーションに失敗しました。IBM Telephone Directory アプリケーションの管理者に連絡してください。(ERROR: Operation failed. Contact your IBM Telephone Directory application administrator)」というエラーが発生する場合は、通常、LDAP サーバーが始動していないことを示しています。 | LDAP サーバーを始動して、再度登録を試行してください。   |

| 問題                                    | 原因  | 解決策  |
|---------------------------------------|---|--|
| <p>項目の更新または削除時にオペレーション失敗のエラーが発生する</p> | <p>プロファイルの更新または削除を行おうとして、「エラー: オペレーションに失敗しました。IBM Telephone Directory アプリケーションの管理者に連絡してください。(ERROR: Operation failed. Contact your IBM Telephone Directory application administrator)」というエラーが発生する場合、HTTP サーバーに適切なディレクティブが構成されていない可能性があります。この問題の症状として、変更を行う前にユーザー ID とパスワードを入力する認証ダイアログ・ボックスが表示されなくなります。</p> | <p>適切な LDAP 構成ディレクティブを HTTP サーバー構成に手動で追加するか、または IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションを再インストールしてください。</p> |

| 問題                              | 原因  | 解決策   |
|---------------------------------|---|---|
| <p>オブジェクトが見つからないというエラーが発生する</p> | <p>IBM Telephone Directory アプリケーションで、「404 - オブジェクトが見つかりません (404 - Object not found)」というエラーが表示される場合は、plugin-cfg.xml ファイルが破棄されている可能性があります。</p>                                | <p>以下のステップを実行して、このファイルをチェックし、必要な場合は修復してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>以下の場所にある plugin-cfg.xml ファイルを開く。<br/><code>/QIBM/UserData/.../config/cells/plugin-cfg.xml</code></li> <li>以下の仮想ホストの指定がファイルにあるか確認する (仮想ホスト <code>default_host</code> およびポート <code>80</code> が前提)<br/><code>&lt;VirtualHostGroup Name="default_host"&gt;</code><br/><code>&lt;VirtualHost Name="80"/&gt;</code></li> <li>以下の URI 親和性 Cookies が、ファイルにあるか確認する。<br/><code>&lt;URI AffinityCookie="JSESSIONID" Name="/bizApps/*"/&gt;</code><br/><code>&lt;URI AffinityCookie="JSESSIONID" Name="/itd/*"&gt;</code></li> <li>これらの指定がファイルにない場合は、WebSphere Application Server 管理コンソールを開く。</li> <li>「環境 (Environment)」を展開する。</li> <li>「Web サーバーのプラグインの更新 (Update WebServer plugin)」をクリックする。</li> <li>「OK」をクリックする。</li> <li>アプリケーション・サーバーを停止し、再始動する。</li> <li>HTTP サーバーを停止し、再始動する。</li> </ol> |
| <p>一部の値が保管されない</p>              | <p>特定フィールドを追加、変更、または除去する権限がない状態で、これらの作業をアプリケーションで試行した場合、一部の値が保管されなかったことを通知するメッセージが表示されます。これは、ディレクトリーで、そのユーザーが自身のプロファイルにそれらの値の追加を許可されていないためです。詳しくは、アプリケーション管理者に連絡してください。</p> | <p>このエラーが表示された場合は、認証を求めるとして IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションが構成されていることを示しています。</p>   |



| 問題                           | 原因  | 解決策   |
|------------------------------|---|---|
| 特殊文字 ("、&、<、> など) が正しく処理されない | IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションは、すべての文字を正しく受け入れて処理できるように作成されており、HTML、JavaScript、および LDAP フィルターや属性値のための特殊文字 (またはメタキャラクター) として識別されるものについても例外はありません。 | IBM Telephone Directory アプリケーションが、RFC 2253 標準に従って、LDAP 属性値用の特殊文字を正しく処理することは確認済みです。しかし、iSeries Directory Services (LDAP) ディレクトリー・サーバーは、この標準を完全にはサポートしていません。これらのケースでは、これらの文字を使用しないようにする以外に対策はありません。<br><br>この問題の例として、引用符 (") 文字が挙げられます。RFC 2253 標準では、LDAP 属性値のリテラル文字として受け入れられるように、引用符の前に円記号 (¥) を付けることでエスケープする必要があります。iSeries Directory Services (LDAP) の現行バージョンは RFC 2253 を完全にはサポートしていないので、サーバーは、円記号文字と引用符の両方を保管します。 |

## エラー・ロギングとデバッグ

### • エラー・ログ

アプリケーション・サーバーには、メッセージを記録するさまざまなログを備えています。例えば、システム・メッセージは、任意のアプリケーション・サーバー・コンポーネントまたはアプリケーションによって書き込まれ、JAVA 仮想マシン (JVM) ログや IBM Service ログなど、汎用目的のログに記述されます。その他のログは性質が非常に特殊で、特定のコンポーネントや活動について記述します。例えば、HTTP サーバーのプラグインは、コンポーネント特有のプラグイン・ログを保守します。

JVM や IBM Service など、汎用目的を持つログは、アプリケーション・サーバーが正常に実行しているかモニターしたり、トラブルシューティングを支援したりするために利用します。特定のコンポーネントに関するトラブルシューティングでは、コンポーネントや製品特有のログ・ファイルなどの、補足的なログ解析が必要になることがあります。

### • ステートメントのトレース

アプリケーションのトレース・ステートメントは、問題のデバッグのために使用可能になります。問題が解決せず、IBM サービスに連絡して支援を求める必要がある場合は、最初にアプリケーションのトレース出力のコピーを求められます。トレース・ステートメントは、アプリケーションの構成ファイルに 1 行を追加し、アプリケーションを再始動することで使用可能になります。

アプリケーションの開始時に、新しい構成が読み込まれます。アプリケーションのトレース・ステートメントは、この時点で使用可能になります。使用可能になると、トレース・ステートメントがサーバーの SystemOut.log ファイルに書き込まれます。







### • LDAP および HTTP サーバーのトレース

LDAP および HTTP サーバーのトレースに関する詳細は、以下を参照してください。

- ディレクトリー・サーバーのトラブルシューティング
- HTTP サーバーのトラブルシューティング (Troubleshoot HTTP server)

## 1 一般的トラブルシューティング情報

1 以下のリソースには、一般的なトラブルシューティングの支援の内容が記載されています。

- 1 • WebSphere Application Server - Express V6 の場合は、関連する『トラブルシューティング』 トピックを参照してください。
- 1 • WebSphere Application Server - Express (i5/OS) V6.1 の場合は、関連する『トラブルシューティングおよびサポート』 トピックを参照してください。
- 1 • WebSphere Application Server V6 の場合は、関連する『トラブルシューティング』 トピックを参照してください。
- 1 • WebSphere Application Server (i5/OS) V6.1 の場合は、関連する『トラブルシューティングおよびサポート』 トピックを参照してください。
- 1 • 『WebSphere Application Server - Express V6 リリース情報 (英語)』 (以下の 『WebSphere Application Server V6 リリース情報』と同じ) を参照してください。
- 1 • 『WebSphere Application Server - Express (i5/OS) V6.1 リリース情報』 を参照してください。
- 1 • 『WebSphere Application Server V6 リリース情報 (英語)』 を参照してください。
- 1 • 『WebSphere Application Server (i5/OS) V6.1 リリース情報』 を参照してください。

---

## 注意と制限

このトピックでは、IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションにおける既知の問題および制限がリストされています。

IBM Telephone Directory V5.2 を使用する際は、以下の注意および制限を考慮してください。

## セットアップ

- IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションは、iSeries Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバーにある既存の基本 DN を使用できるように構成できます。inetOrgPerson オブジェクト・クラスを使用して、システム・ディレクトリーを LDAP サーバーに公開すれば、アプリケーション用にそのディレクトリーを使用できます。このためには、IBM Welcome Page V1.1 のインストール時に、IBM Telephone Directory アプリケーション用に使用する基本 DN を指定します。ただし、inetOrgPerson オブジェクト・クラスでは、パスワード・フィールドはオプションです。ユーザーによる自分自身の項目の更新を可能にするには、許可ユーザーが項目にパスワード値を設定する必要があります。
- ご使用のシステムでシステム・ディレクトリー・パブリッシングがオン/使用可能のままになっていると、ディレクトリーの定期的な更新により、IBM Telephone Directory アプリケーションを介して変更が廃棄されます。これはディレクトリー・パブリッシングの制限です。ディレクトリー・パブリッシングは、ディレクトリーの初期セットアップを実行する場合のみ使用し、ディレクトリーの更新を行う場合はオフにすることをお勧めします。

## 一般的使用法

- 電話番号を検索する場合、暗黙のワイルドカードはありません。IBM Telephone Directory V5.2 アプリケーションは、ユーザーが入力したとおりの値を検索します。電話番号の一部を対象にして検索するには、必ずワイルドカード文字 (\*) を指定してください。

例として、市外局番が 507 であるすべてのユーザーを検索するケースを考えます。次の検索値で、これを行います。

\*507\*

注: 市外局番 507 を含まないユーザーも検索結果に表示されることがあります (これは、実際の電話番号に 507 があるユーザーです)。

- ユーザー ID およびパスワードの入力を求められたときは、入力した文字が、IBM HTTP server for i5/OS のデフォルト・ジョブ CCSID にマップされる必要があります。HTTP サーバーは、ユーザーが入力したユーザー ID とパスワードが、サーバー用に構成されたネット CCSID (ASCII) でエンコードされているとみなし、それらをサーバーのジョブ CCSID (EBCDIC) に変換します。これらの文字がマップしない場合は、サインオンが失敗します。例えば、ユーザー ID やパスワードに日本語の文字が含まれている場合は、HTTP サーバーは、日本語のネット CCSID (943 など) および日本語ジョブ CCSID (5035 など) で実行していなければなりません。そうでない場合、ユーザーは IBM Telephone Directory アプリケーションにサインオンできません。これは、HTTP サーバーがユーザーのクリデンシャルを認証できないためです。この制限は、入力や表示の形式には適用されません。これは全データが UTF-8 でエンコードされているためです。この制限はサインオンにのみ適用されます。

影響を受けるのは、以下のエリアです。

- クローズの登録でのユーザーの登録
- ディレクトリー項目の更新
- 項目のパスワードの変更
- ディレクトリー項目の削除

以下のエリアは影響を受けません。

- オープンの登録でのユーザーの登録
- 基本検索
- 拡張検索
- 項目の詳細表示
- オンライン・ヘルプおよびその他のフォーム

## 登録

- デフォルトでは、パスワードは必要ありません。
- ユーザー項目に写真を挿入したい場合は jpg 形式とする必要があります。IBM Telephone Directory アプリケーションは gif 形式をサポートしていません。写真サイズは、構成されている値のサイズより小さくしなければなりません。
- その他の項目が、「管理者名 (Manager Name)」、「アシスタント名 (Assistant Name)」、または「バックアップ名 (Backup Name)」フィールドを指定するには、有効なユーザー項目を作成する必要があります。つまり、項目を初めて作成する際にすべての値を記入したい場合は、トップダウンのプロセスを使用してディレクトリーを作成する必要があるということです。その代わりに、すべての項目を作成後に、「項目の更新 (Update entry)」機能を使用して、管理者、アシスタント、またはバックアップの値を入力することもできます。例えば、従業員が「管理者名 (Manager Name)」を自分の項目に入力するの

は、管理者の項目が作成された後である必要があります。従業員が項目を作成中に、管理者の項目が存在しない場合は、管理者の項目を作成後に従業員の項目を更新することが必要です。

- IBM Telephone Directory アプリケーションでは、ユーザーが別の (管理者がリストされている従業員などの) 項目で使用されている (管理者などの) 項目を削除しても、管理者名が従業員の項目から除去されることはありません。同じシナリオが、「バックアップ名 (Backup Name)」および「アシスタント名 (Assistant Name)」フィールドにも当てはまります。
- 管理者、アシスタント、またはバックアップの項目が削除された場合、その項目へのリンクは関連付けられたユーザー項目に表示されなくなります。削除された項目が再作成された場合 (さらに、同じ CN 値およびユーザー ID 値を使用する場合)、その項目へのリンクが自動的に再表示されます。さらに、管理者の項目が削除されると、(削除された項目にリンクされた項目の)「管理系統 (Reports-To Chain)」ページは、管理者の項目が再作成されない限り機能しません。しかし、管理者の項目が削除されていても、「同一部門 (Same-Department)」ページは機能しています。

## データ保全性

- ユーザーは、IBM Telephone Directory アプリケーションにおけるデータ保全性に責任があります。このアプリケーションは、限定された妥当性検査の規則を備えていますが、正しいデータの入力については管理者またはユーザーに責任があります。

---

## 付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711  
東京都港区六本木 3-2-12  
IBM World Trade Asia Corporation  
Intellectual Property Law & Licensing

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。** IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとしします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA  
3605 Highway 52 N  
Rochester, MN 55901  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。



- 1 本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム
- 1 契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項
- 1 に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. \_年を入れる\_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

---

## 1 プログラミング・インターフェース情報

本書には、プログラムを作成するユーザーが IBM Business Solutions のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

---

## 商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。



DB2  
i5/OS  
IBM  
IBM (ロゴ)  
iSeries  
Lotus  
Lotus Domino  
Lotus Notes  
Redbooks  
Sametime  
Tivoli  
WebSphere

- l Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

---

## 使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

**個人使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

**商業的使用:** これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。







Printed in Japan